

港地域交流センター整備基本計画



『ふらっと来るさ!』

出会い、触れ合い、学びあう

みなとっこのセンター(まんなか)に



令和 8 年 3 月

焼津市 生きがい・交流部

スマイルライフ推進課

目次

		頁
第Ⅰ章 計画の目的 と位置づけ	I-1 基本計画の目的	4
	I-2 計画の必要性	4
	I-3 計画の位置づけ	4
第Ⅱ章 施設整備	Ⅱ-1 計画敷地の選定・配置検討	6
	Ⅱ-2 配置概念図	8
	Ⅱ-3 施設の機能と規模の想定	9
	Ⅱ-4 施設の機能と規模の想定	11
第Ⅲ章 事業手法	Ⅲ-1 整備・運営	20
	Ⅲ-2 ゼロエネルギー化に向けて	22
	Ⅲ-3 概算事業費	27
	Ⅲ-4 事業全体スケジュール	28
第Ⅳ章 基本計画図	Ⅳ-1 配置図(案)	30
	Ⅳ-2 平面図(案)	31
第Ⅴ章 資料編	V 港地域交流センター整備基本計画 の基礎となる考え方・構想	

第 I 章

計画の目的 と位置づけ

第 I 章 計画の目的と位置づけ

I-1 基本計画の目的

本計画は、港地域交流センターの現況や課題などをまとめた「焼津市港地域交流センター機能調査業務 報告書(令和7年3月)」及び「地域住民を対象とした住民意見交換会及びアンケート調査」の結果及び地域住民の意向に加え、サステナビリティと環境配慮、多様な活動を創出する視点をもって、整備の基本的な考え方や整備スケジュール等、整備基本構想をとりまとめるとともに、新施設の立地場所、規模、機能、整備手法等の具体化を通じて港地域交流センターの整備基本計画をとりまとめることを目的とします。

I-2 計画の必要性

現行の港地域交流センターは、建築後44年が経過し、老朽化が進行するとともに、公共建築物としての機能不足及び風水害等の発災時に備え、建て替え整備の検討が求められています。本業務は、新たな地域交流センターがユニバーサルデザインを導入した誰もが利用しやすく、防災拠点としての機能を備え、多様な地域住民のニーズに応えたコミュニティの拠点として整備する計画案を策定するものです。

I-3 計画の位置づけ

本市において、地域の社会教育活動の拠点となる地域交流センターは、焼津市地域交流センター条例に基づき設置され、中学校区単位に1館ずつ合計9館が整備されています。

従来の地域交流センターの役割に加え、より柔軟な利用を可能にし、地域の実情に応じた活動を支援する役割、市民活動団体の情報発信や交流、協働を支援する役割、地域住民が主体となった「人づくり」「まちづくり」を支える中心的な役割を担います。風水害の発災時には「指定避難所」として位置づけ、住民が避難する重要な防災拠点となり、地域の活力創出と持続的な発展を支えるための総合的なコミュニティ施設として位置づけられます。

第Ⅱ章

施設整備

第Ⅱ章 施設整備

Ⅱ-1 計画敷地の選定・配置検討

(1) 港地域の現状

港地域は、焼津駅から車で10～15分程度の、市の中央東部に位置し、エリアの北部と西部では土地区画整理事業によるまちづくりで住宅、商業施設、診療所などの立地が進み、焼津市最大規模の「防災公園」としての位置づけられる石津西公園(愛称:みなく～)が整備されています。また石津海岸公園をはじめ沿岸部は、富士山と駿河湾、伊豆半島が一望できる自然環境に恵まれた地域であると同時に、海岸線からは約900m、小川漁港からは約400mという近さから、高潮や津波への危機意識が高い地域と言えます。

現在の港地域交流センターは、港小学校に隣接し、前面道路を挟んで西側には石津中央公園、その西側には石津保育園があり、石津地区の中心に位置します。

(2) 計画敷地の概要

建設場所：焼津市石津港町40-1(現施設及び港小学校敷地内)

用途地域：第1種中高層住居専用地域

許容建蔽率：50%

許容容積率：100%

防火地域：指定なし

その他：建築基準法22条地域内

(3) 計画敷地の選定

地域交流センターの建設にあたり、同施設の駐車場内での建て替えのほか、隣接する港小学校の敷地内での建て替えなどが考えられ、それぞれの特性と実現可能性についてワークショップで検討を重ねました。

候補地として当初5箇所の案から議論を始め、諸条件の比較や実現性の比較を行ないました。別表にて、現在の交流センター駐車場部分を利用するA・B案、隣接する港小学校のグラウンドを使用するC案との「比較表」を次ページに示します。利便性や法的な制限についてはいずれも支障ありませんが、A・B案と比較してC案はグラウンド部分の縮小による各方面への影響が大きいこと、関連工事が必要となりコスト増につながるなどから、A・B案をベースとして検討を重ね、最終的な配置案としました。



焼津市港地域交流センター
機能調査業務 報告書より

候補地 敷地条件比較表

候補地略図			
候補地 No 検討項目	<p>Ⓐ 現敷地 交差点側</p>	<p>Ⓑ 現敷地 交差点側</p>	<p>Ⓒ 学校敷地 グラウンド南道路沿い</p>
利便性・環境	現施設と同敷地で利便性が高い。公園に近く環境が良い。学校に近接し連携がとりやすい		現施設に近く、利便性が高い。学校に近接し連携がとりやすい
道路条件	西側12m道路 南側9m道路		南側9m道路
法的な検討 (高さ制限・都市公園法)	道路斜線制限 西側道路より 4m 後退 $(12.0m+4.0\times 2)\times 1.25=25.0m$ ∴問題ない 道路斜線制限 南側道路より 8m 後退 $(9.0m+8.0\times 2)\times 1.25=31.25m$ ∴問題ない 建物北側及び西側道路面に余地あり日影制限の影響はない		道路斜線制限 南側道路より 3.5m 後退 $(9.0m+3.5\times 2)\times 1.25=20.0m$ ∴問題ない 建物北側に余地あり日影制限の影響はない
建物の配置	東西軸の日当たりの良い建物が建築可能	南北軸の建物となり日当たりは良くない	東西軸の日当たりの良い建物が建築可能
課題(支障物・移転物件)	地域交流センター側:自治会倉庫・土のうステーション・学校側:駐輪場上屋・飼育小屋・池		グラウンド内倉庫
関連工事	特になし		プール解体及び遊具移設工事・グラウンド照明設備・防球ネット等の移設工事上記に伴うグラウンド整備工事
周辺宅地 への影響	南側・西側住宅地とは広い道路で隔てられ影響は少ない		南側住宅地とは広い道路で隔てられ影響は少ない 東側住宅地とは駐車場と近接する可能性がある
工事中の課題	現センター利用者の駐車場確保が必要 通学路に面して工事を行なうため安全確保に十分な配慮が必要		工事中も現センターの駐車場は利用可能 通学路に面して工事を行なうため安全確保に十分な配慮が必要
総合評価 及びコメント	現センターと同じ敷地内に建設するため、地域として受け入れやすい計画といえる。また学校との連携も現在と同様に維持できる。現施設の駐車場内での工事であり、工事期間中のセンター利用者の駐車場を確保することが必要である。また、移転物件の配置先の検討が必要である。		新たな敷地であり、建物としては自由度の高い計画が可能である。学校のグラウンドを縮小するため、トラックの周囲が現状よりも狭くなり、各種行事への影響が大きいく、野球場を維持するためには関連工事に相応のコストがかかる。

第II章 施設整備

II-2 配置概念図



第Ⅱ章 施設整備

Ⅱ-3 施設の構造

(1)施設の規模・機能をふまえ、建物の構造について比較検討を行った結果、本施設は鉄筋コンクリート造で整備することを基本として進めます。

項目	木造	鉄骨造	鉄筋コンクリート造	備考
法定耐用年数	22年 (24年)	34年 (38年)	47年 (50年)	()内は償却年数
推奨階数	1～3階建	1～8階建	3～10階建	
耐久性の確保	○ 結露・湿度による腐朽のリスク対策と蟻害対策が必要	○ 防錆対策が必要	○ コンクリートの中性化及び鉄筋の防錆対策が必要	
耐震性	○ 軽量化で衝撃を抑えることにより耐震性を確保	○ 柔軟性により耐震性を確保	○ 高い剛性により耐震性を確保	
津波避難ビルへの対応	× 不可	△ 条件付きで可	◎ 推奨	
耐火性	× 可燃性であり耐火性は低く、耐火被覆が必要	○ 不燃性であるが耐火被覆が必要	◎ 耐火性能が高い	
単位重量	300～500 kg/m ³	600～900 kg/m ³	1200～1500 kg/m ³	
資材調達	△ 産地によっては大量の資材調達は時間を要する	○ 容易	○ 容易	一般的な社旗情勢の下での検討
品質確保	○ 製材品質と接合部の施工品質の管理が必要	◎ 工場製作であり一般に品質は確保しやすい	○ 鉄筋・型枠・コンクリート工の施工品質の管理が必要	
工期	○ RC造と比較して短縮可能	○ RC造と比較して短縮可能	△ 現場での作業が主体であり工期短縮は困難	
改修等の自由度	△ 在来木造では短スパンであり改修の自由度は低い	○ 長大スパン架構が可能であり改修の自由度が高い	○ 10m以内程度の大スパンが可能で比較的改修の自由度は高い	一般的な条件下であり、特殊材は考慮していない
総合評価	× 津波避難ビルへの対応が不可である点、耐火性能などから不適合と判断する	○ 津波避難ビルの要件が条件付きであり、本施設における最適の工法ではない	◎ 津波避難ビルの要件を満たし、耐火性能も高く、本施設の条件を十分満たす	

(参考)

<焼津市津波避難ビルガイドラインの津波避難ビル等の指定要件>

1. ①構造的要件と②位置的要件の全ての項目を満たす建物であること。
2. 屋上を避難場所とする場合は転落防止柵(1.1m以上)の設置等、安全性が確保されていること。
3. 原則、地域住民等が 24 時間避難可能であること。

<①構造的要件>

- ア. 新耐震設計基準(昭和 56 年6月1日以降の建築基準法における耐震基準)を満たすもの。または、躯体部分の耐震改修工事を施工し、新耐震設計基準と同等と認められる補強を実施したもの。
- イ. RC(鉄筋コンクリート造)または SRC(鉄骨鉄筋コンクリート造)の構造物であること。ただし、津波浸水想定、地域の状況等によっては、S(鉄骨造)他の建物も認めることができる。
- ウ. 避難する階の高さが、想定する津波の浸水深を超える階に1を加えた階の床面以上の場所を確保できること。
- エ. 津波浸水想定を設定する際に想定した津波に対して安全な構造方法等を定める件(平成 23 年国土交通省告示第 1318 号)を基に、津波に対する一定の安全性が確認された建物であること。ただし、同告示に準拠した方法により、津波に対して一定の安全性が確認できた建物についても対象とする。

<②位置的要件>

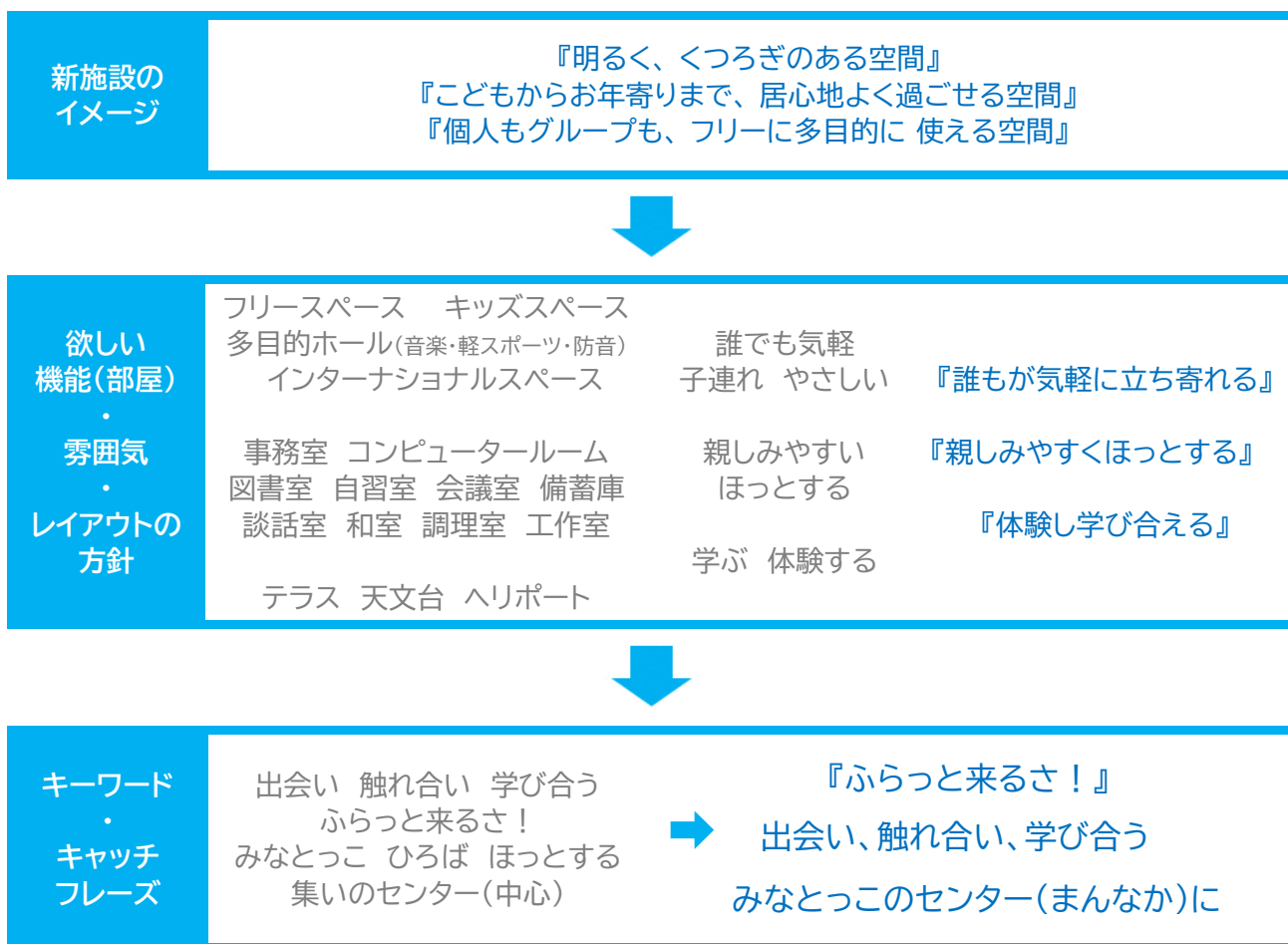
津波避難ビル等は、平成 25 年6月に静岡県が発表した「静岡県第4次地震被害想定(第1次報告)」における本市の津波危険予想地域内の建物とする。

第Ⅱ章 施設整備

Ⅱ-4 施設の機能と規模の想定

(1) 施設に導入する機能と求めるイメージ

ワークショップを重ね、新たな地域交流センターに求めるイメージや使い方をもとに、施設に導入する機能(室名)を整理しました。



(2) 諸室の機能

◆フリースペース

- ・ガラス面を多用することで視認性の高いスペースとし、内部のくつろぎが外部に伝わり、入りやすい雰囲気を醸し出します
- ・ベンチやカフェカウンターを設置し、多様な世代が気軽に集まり、思い思いの時間を過ごせる「たまり場」的な空間を生み出します
- ・図書コーナー側に、雑誌用の書架を置き自由に手に取れるように計画します

第Ⅱ章 施設整備

◆フリースペース ～ ひろば(屋外)

- ・センター北側外部に設ける「ひろば」に面して出入口を複数設け、内と外のつながりをもたらし、地域のイベントをはじめ、内外一体的な新しい使い方が期待できるつくりとします

◆図書コーナー

- ・事務室カウンターに面する配置として、スムーズな貸出し管理が可能となるよう計画します
- ・開架式の書棚を中心に 6,000 冊程度の蔵書を想定して計画します

◆閲覧・自習スペース

- ・事務室に隣接する位置に配置し、落ち着いて利用できるスペースとして計画します
- ・フリースペースと同じく、外部とのつながりをもたらす使い方も可能となります

◆事務室

- ・フロアの中心的な位置に広くカウンターを設け、入退館者の把握と安全確保ができる形態とします
- ・図書スペースに面し、本の貸し出し管理がしやすい配置とします
- ・カウンター内には、事務に必要な印刷スペース、打合せコーナーを設けます
- ・館内に設置する防犯カメラのモニターを設置し、施設管理を一元的に担う場所とします

◆多目的ホール

- ・木目調の温かみのある空間や、自然光を取り入れた明るい空間デザインとして、誰もが自由に使える、子どもたちも安全に遊べるスペースとします
- ・屋外テラスは屋根付きで、雨天時は雨除け、晴天時は日差しを除けて遊べるスペースとします

◆WC・階段・廊下・エレベーター

- ・安心・安全に配慮し、誰にとっても移動が不安なく安全に行えることを基本とします
- ・わかりやすい動線計画とし、主要な移動経路は明確かつ簡潔にし、誰もが迷わず目的の場所にアクセスできるようにします。
- ・ユニバーサルデザインを徹底し、段差の解消を原則とし、やむを得ない場合は傾斜路(スロープ)やエレベーターでの移動を可能とします

◆大集会室

- ・着座200名程度の規模として、地域のイベントや風水害時の避難所に対応可能な規模を想定します
- ・さまざまな利用形態を想定し、跳ね上げ式ステージ、音響・照明設備を備えます
- ・廊下や他の居室への音漏れ・振動を抑えるため、適切な防音性能を備えます

第Ⅱ章 施設整備

◆料理実習室・準備室

- ・多様な料理教室や食育活動、被災時の炊き出しに対応できる調理実習室を計画します
- ・セミナーや会議等、様々な活動に対応できる部屋とします
具体的には、調理台は調理実習だけでなく、作業台や試食テーブルとしても利用できるよう、シンクカバーを備えるなどの工夫をします
- ・公共施設としての安全性を考慮し、IH クッキングヒーターの導入を検討します
- ・衛生管理に十分配慮し、手洗いには石けん液・アルコール消毒器を備えた自動水栓とします

◆会議室

- ・各室でプロジェクター使用が可能なスクリーンまたは壁面を備えます
- ・各室に収納スペースを設け、会議用テーブルやチェアの収納を可能とします
- ・2階会議室 A・B は可動間仕切の開閉により、別々での使用と一括での使用を選択が可能です

◆和室

- ・18帖の和室に、書院, 床の間, 水屋を備え、茶室としての使用も可能なものとします
伝統文化の継承と生涯学習の充実を図るとともに、世代を超えた交流と心の安らぎを生みます

※基本的に館内すべてをフリーWi-Fiとして、リモート会議やリモートセミナーを可能とし、誰もが思い思いの使い方で過ごせる空間とします

◆駐車場

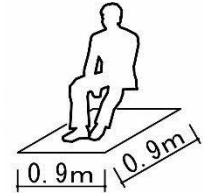
- ・本施設の利用者向けに、建物の機能及び床面積に応じて、適切な駐車台数を確保するよう、プール跡地の駐車場を含め計画します。

第Ⅱ章 施設整備

(3) 諸室の想定床面積 算定 (案)

大ホール

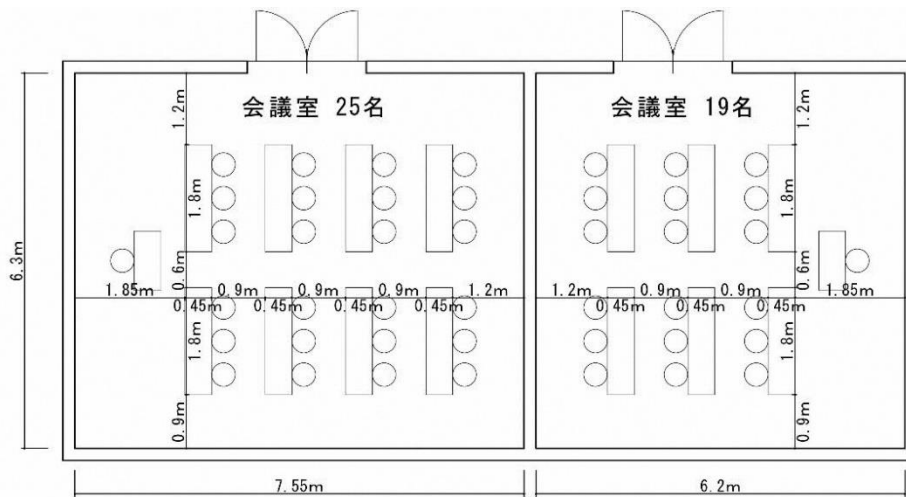
椅子, 床に座る場合の一人あたり面積 $0.9\text{m} \times 0.9\text{m} = 0.81\text{m}^2$
 200名収容として $0.81\text{m}^2 \times 200\text{名} = 162\text{m}^2$ 必要



〈計画案〉大ホール(ステージ格納部除く) $13.5 \times 13.0 = 175.5\text{m}^2 > 162\text{m}^2$

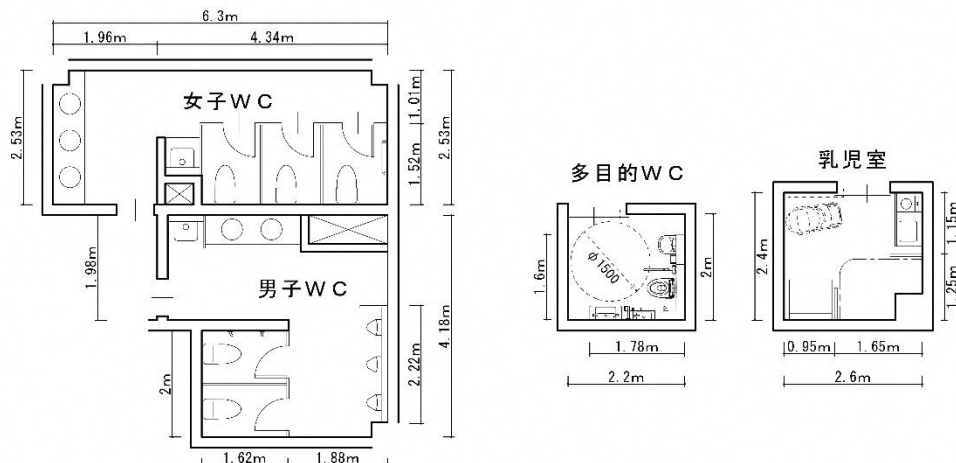
会議室

〈25名〉 $7.55 \times 6.3 = 47.6\text{m}^2$ 程度 必要 〈19名〉 $6.2 \times 6.3 = 39.1\text{m}^2$ 程度 必要



WC・授乳室

〈男子WC〉 17.6m^2 程度 必要 〈多目的WC〉 4.4m^2 程度 必要 〈乳児室〉 6.2m^2 程度 必要
 〈女子WC〉 17.7m^2 程度 必要 ※国のガイドラインに沿ってWCの設計を進めていきます。



第Ⅱ章 施設整備

(4) 想定床面積表

区分	現施設の 床面積	新交流センター の想定床面積	備考
1階		540 m ² 程度	
事務室/書庫/ロッカールーム		70 m ² 程度	
多目的ホール		90 m ² 程度	
給湯室		10 m ² 程度	
WC/多目的WC/授乳室		50 m ² 程度	
備蓄庫		10 m ² 程度	
フリースペース		45 m ² 程度	
図書コーナー		65 m ² 程度	
閲覧・自習スペース		45 m ² 程度	
ホール/談話コーナー		100 m ² 程度	
EV/階段/廊下		55 m ² 程度	
2階		580 m ² 程度	
大集会室/収納	大会議室136m ²	200 m ² 程度	200人程度着座
調理室/準備室	69 m ²	80 m ² 程度	調理台5台
会議室 A/収納	73 m ²	60 m ² 程度	25人程度
会議室 B/収納	研修室46 m ²	60 m ² 程度	25人程度
給湯室		10 m ² 程度	
WC/多目的WC		40 m ² 程度	
備蓄庫		10 m ² 程度	
EV/階段/ホール/収納/廊下		120 m ² 程度	
3階		320 m ² 程度	
会議室 C/収納		60 m ² 程度	19人程度
和室18帖/押入/水屋	103 m ²	60 m ² 程度	
給湯室		10 m ² 程度	
WC		35 m ² 程度	
備蓄庫		10 m ² 程度	
機械室		30 m ² 程度	
EV/階段/ホール/廊下		115 m ² 程度	休憩コーナー
R階		60 m ² 程度	
備蓄庫		10 m ² 程度	
EV/階段/ホール		50 m ² 程度	
合計		1,500 m ² 程度	

第Ⅱ章 施設整備

配置計画は、124 台を見込んでいる。

その内訳は、センター敷地46台、体育館北側 15 台、教職員用駐車場 27 台、プール跡地駐車場 36 台とする

なお、教職員や支援員、配膳員等が駐車する台数は 50 台程度を見込んでおり、残りの 74 台をセンター利用者が駐車する

(5) 駐車台数の算定 (案)

主要居室の想定利用人数の合計による、施設の最大同時利用者数を求める

大集会室 200 名

会議室(2 室想定) 50 名

図書・フリースペース 20 名より、計 270 名

このうち「半径 500m 圏外」から車で来る人の割合を 60%(車利用の可能性あり)と仮定し、徒歩・自転車利用者を排除した人数を求める

$270 \text{ 名} \times 0.6 (\text{圏外率}) = 162 \text{ 名}$

上記の住民が利用する台数を、交通分担率と 1 台当たり乗車人数から算出する

交通分担率: 68.2%(焼津市公共交通計画より)

平均乗車人数: 1.5 人と仮定

$162 \text{ 名} \times 0.682 \div 1.5 \text{ 名/台} = 73.7 \text{ 台} (\text{需要台数})$

※ 但し、催事の内容や参加対象者の属性・天候等により、この予測を大幅に上回るケースがある

第Ⅱ章 施設整備

(6) 港小学校との複合化について

港地域交流センターに隣接する港小との複合化について、地域住民参加のワークショップでの検討を行う共に、建物を連結することによる課題の整理を行い、複合化の考え方を整理した

① 住民参加におけるワークショップでの検討

- ・音楽室や家庭科室、図書室などの特別教室の配置を考えると、普通教室の横を授業中にセンター利用者が通ることになり、防犯上の問題や児童も授業に集中できない可能性がある
- ・通路設置に伴い、校舎の耐震工事が必要となるが、時間やコストを掛けてまで接続する必要があるのか

② 建物を連結することによる検討

- ・耐震補強済みの校舎の壁に連絡通路の入り口を設けることは耐力の低下につながり、再度、耐震診断・補強計画を行ない、耐力不足分を補う補強工事が必要となる見込みで、現実的ではない
- ・仮に耐震工事が必要となると、設計から工事まで追加で2年くらいは必要となる見込みである

③ 複合化の考え方

新施設のキャッチフレーズである『ふらっと来るさ！出会い、触れ合い、学びあう みなとっこのセンター(まんなか)に』と施設の建設方針により、港地区のランドマークとなる施設を整備する
また、港地域交流センターと小学校とを通路などで接続しないが、「交流の場の整備」と併せて、敷地の一体利用や体育館、駐車場等の共同利用する「施設の共同利用」を図っていく。

【施設の建設方針】

『誰もが気軽に立ち寄れる施設』

『親しみやすくほっとする施設』

『体験し学び合える施設』

- 個人でもグループでも、フリーに多目的に使える空間
- 内部のくつろぎが外部に伝わり、入りやすい雰囲気を醸し出す
- 多様な世代が気軽に集まり、思い思いの時間を過ごせる「たまり場」的な空間を生み出す

(具体的な利用方法)

- ・ロビーなどのフリースペースに加え、会議室の未利用時間帯の常時開放

第Ⅱ章 施設整備

【複合化の具体的な活用方法】

「交流の場の整備」と「施設の共同利用」

「交流の場の整備」

- 駐車場と施設間に「ひろば」「西門」を設置
 - 地域・センター・学校共通の交流スペースとする
 - 「ひろば」に面する「西門」は学校の玄関及び昇降口に通じる
- 自習室やフリースペース、図書スペースの設置
 - 地域住民と子ども達の交流の場、居場所として活用

「施設の共同利用」

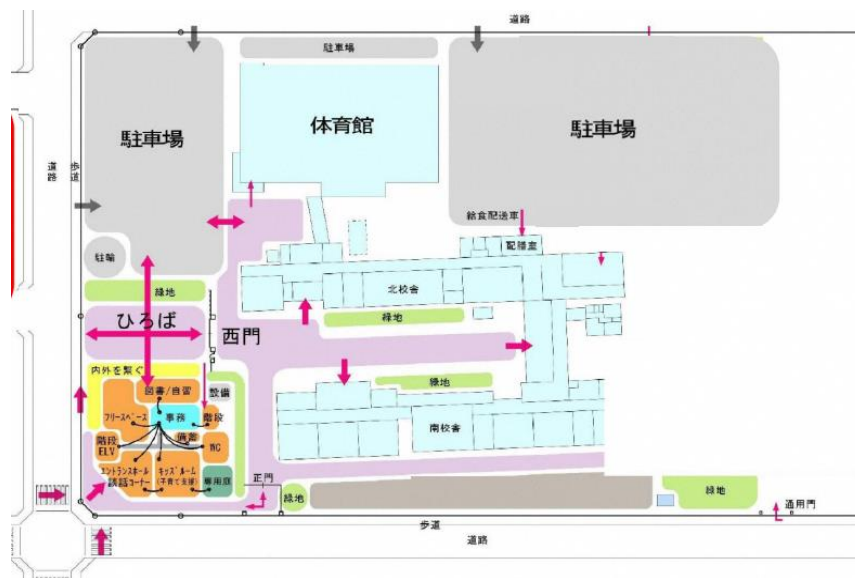
地域交流センター施設の共同利用

- 自習室やフリースペース、図書スペースの設置
 - 子ども達の自主的な学習の場、子どもの居場所として活用
- 「ひろば」の活用（再掲）
- 交流センターを避難所の一部として活用、防災資機材の保管
 - 状況に応じて避難スペースとして活用

港小施設の共同利用

- 学校体育館の共同利用
 - センター主催講座等により、地域住民の健康維持の促進への期待
 - 体育館の有効的な活用促進
- 図工室や音楽室、家庭科室など特別教室の共同利用
 - ものづくりや合唱等の講座等により、地域住民の生きがいの促進と施設の有効利用
- 校舎南側の花壇やビオトープの活用
 - 花や野菜栽培、ビオトープ整備等の体験活動を通じて地域交流を促進

駐車場の共同利用



第三章

事業手法

第三章 事業手法

Ⅲ-1 整備・運営

施設に導入する機能や敷地条件を踏まえ、整備手法・運営手法の方針は以下の通りとします

◆整備手法

- ・公設で整備する場合、地域の交流拠点施設として国の交付金等の財源を用いた整備が可能となる
- ・防衛省補助(民生安定助成事業)または地域未来交付金(地域未来推進型:旧第2世代交付金)のいずれかを活用予定であるが、現時点では補助額が大きい地域未来交付金を検討
- ・補助期間案①R9~11 → 焼津体育館とR9重複、プール解体から本体工事まで
- ・補助期間案②R10~12 → 本体工事から現施設解体、駐車場と外構工事まで

補助名	防衛補助(民生安定助成事業)	地域未来交付金(地域未来推進型) ※旧第2世代交付金
補助率	2/3	1/2
補助上限	不明(豊田:279,477千円)	10億円(事業費ベース20億円)
補助対象期間	3年間	3年間(ソフト事業は5年まで延長可)
補助対象など	・実施設計から申請可 ・申請は実施年度の前年5月 →R9実施設計なら申請はR8年5月	・国が定める募集(申請)期間に申請 ・KPIの設定が必須 ・申請書や関連資料の作成が大変

- ※その他、太陽光設備を設置する場合などは、脱炭素化推進事業債(総務省)などの活用も検討する
→ 起債額は実際の工事費により決定。充当率90%、交付税措置50%
- ・後年度の償還に有利な起債の借入れも可能である
 - ・民設については、建設から管理まで民間のノウハウを活用できるが、本施設では事業規模が小さいこと、起債と比較し金利の高い民間資金を活用した整備となることから、民間の参入には適さない
よって「公設」として進めるものとします

◆運営手法

- ・民間事業者による運営の場合、施設の目的上、利用料収入のみでの運営は難しいことから、一定程度の公費を継続して拠出していく必要があります
- ・管理・運営に関しては、地域に親しまれ、訪れたい施設運営を目指し、営利目的の施設ではなく地域の実情にあった運営を目指すべきである
- ・また、港地域交流センターと港小学校との複合化の考え方として、「交流の場の整備」と併せて、敷地の一体利用や体育館、駐車場等の共同利用する「施設の共同利用」を図っていく
- ・よって、将来的な地域交流拠点施設としての運営の仕組みを、今後構築していくことも考えられますが、当面は公営による運営が現実的と思われます
上記より、「公営」として進めるものとします

第三章 事業手法

◆敷地条件 及び 土地の利用に関する事項

- ・Ⅱ-2配置概念図に示す通り、本施設の設置により隣接する港小学校との複合的な利活用を進めます。港小学校との複合的な利活用にあたり、新たに西門を設置する、現施設跡地と体育館の間の通路を拡幅したり通学路である歩道部分にゆとりをもたせたりするなど、児童の安全に配慮した計画とします。
- ・本事業は、現施設の敷地 1,279.08 m²に、隣接する学校敷地の一部と合わせ、約 3,960 m²を事業敷地とします。このことから、「焼津市土地利用事業の適正化に関する指導要綱」による「協議」を行います。
- ・焼津市では、土地利用事業の施行にあたって調整池の設置を誘導していることから、当該事業敷地内に調整池を設置し、治水安全度の向上を図ります。
- ・焼津市みどりを育てる条例 第11条により、交流センター敷地及び学校敷地全体の面積に対し 10 パーセントの緑地を設けます。

Ⅲ-2 ゼロエネルギー化に向けて

(1) ZEB の定義

「先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物」と定義しています。

現在、ZEB の実現・普及に向けて、4 段階の ZEB を定性的及び定量的に定義しています。

ZEB の定義

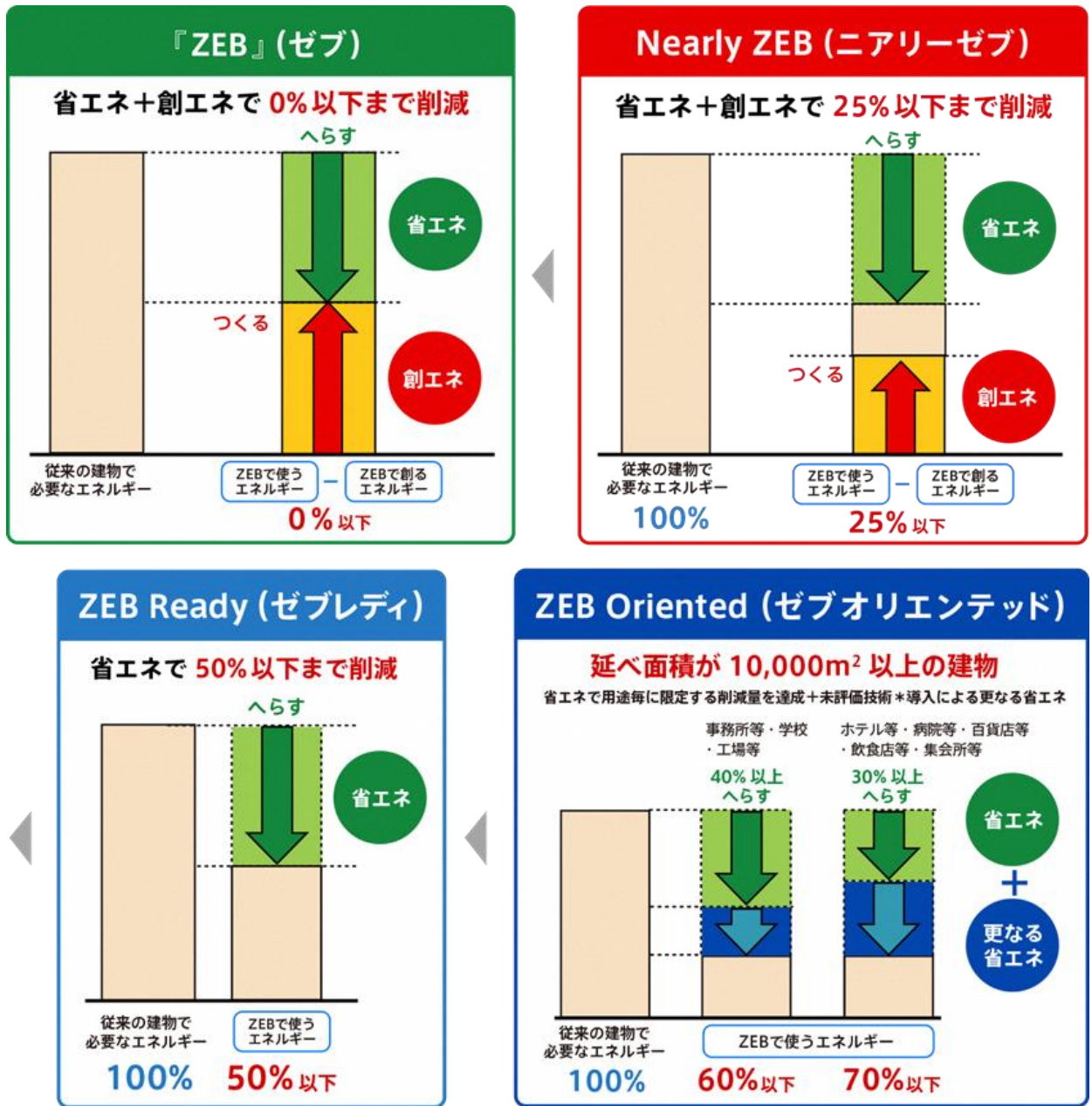
	定性的な定義	定量的な定義(判断基準)
ZEB	年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロ、またはマイナスの建築物	以下の①～②のすべてに適合した建築物 ①基準一次エネルギー消費量から 50%以上の削減 (再生可能エネルギー*を除く) ②基準一次エネルギー消費量から 100%以上の削減 (再生可能エネルギー*を含む)
Nearly ZEB	ZEB に限りなく近い建築物として、ZEB Ready の要件を満たしつつ、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量をゼロに近付けた建築物	以下の①～②のすべてに適合した建築物 ①基準一次エネルギー消費量から 50%以上の削減 (再生可能エネルギー*を除く) ②基準一次エネルギー消費量から 75%以上 100%未満の削減(再生可能エネルギー*を含む)
ZEB Ready	ZEB を見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物	再生可能エネルギー*を除き、基準一次エネルギー消費量から 50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物
ZEB Oriented	ZEB Ready を見据えた建築物として、外皮の高性能化及び高効率な省エネルギー設備に加え、更なる省エネルギーの実現に向けた措置を講じた建築物	以下の①及び②の定量的要件を満たす建築物 ①該当する用途毎に、再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から規定する一次エネルギー消費量を削減すること(※1) A) 事務所等、学校等、工場等 40%以上の一次エネルギー消費量削減 B) ホテル等、病院等、百貨店等、飲食店等、集会所等 30%以上の一次エネルギー消費量削減 ②「更なる省エネルギーの実現に向けた措置」として、未評価技術(WEBPRO において現時点で評価されていない技術)を導入すること(※2)

*再生可能エネルギー量の対象は敷地内に限定し、自家消費分に加え、売電分も対象に含めることとする

(※1)(※2) 略

環境省ホームページより

ZEBの定義(イメージ図)



*WEBPROにおいて現時点で評価されていない技術

第三章 事業手法

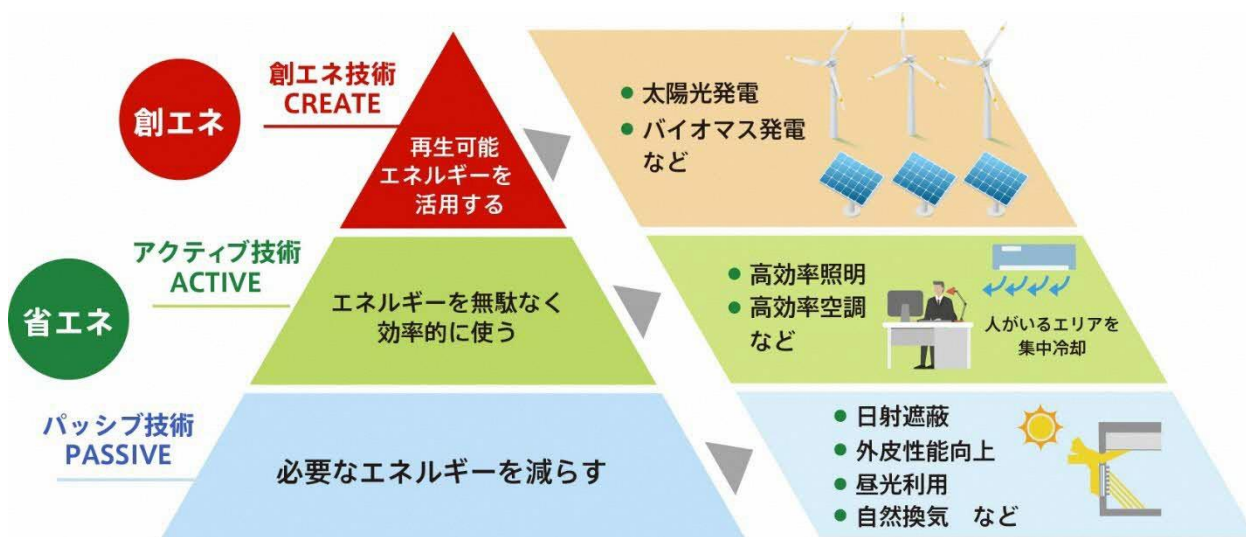
(2) ZEB のレベルと ZEB 化を実現するための技術

ZEB を実現するための技術は、大きく「エネルギーを減らすための技術(省エネ技術)」と「エネルギーを作るための技術(創エネ技術)」に分けられます。さらに省エネ技術は、「建物内の環境を適切に維持するために必要なエネルギー量(エネルギーの需要)を減らすための技術(パッシブ技術)」と「エネルギーを効率的に利用するための技術(アクティブ技術)」に分けることができます。

実際に ZEB を実現する場合には、①パッシブ技術によってエネルギーの需要を減らし、②どうしても必要となる需要については、アクティブ技術によってエネルギーを無駄なく使用し、③そのエネルギーを創エネ技術によって賄うといったステップで検討することが重要です。

また、建物の運用段階では、どこにエネルギーの無駄が発生しているか、どのように効率的に設備を運用するかなど、エネルギーをマネジメントする技術(エネマネ技術)も重要です。このエネマネ技術によって継続的なエネルギー消費量の削減を図ることができます。

ZEB のレベルと技術



環境省ホームページより

第三章 事業手法

(3) モデルビルによる ZEB 化レベルごとのコスト比較

モデルビルのコストを 100 として、ZEB レベルに応じたコストを試算します

ビル建設地:東京

階数:地上 4 階建 地下階なし 延床面積:3,000 m² 用途:オフィスビル

レベル	基準コスト① 平成 28 年 基準相当	①に対する イニシャルコスト 比率	①に対する ランニングコスト 比率	初期投資増分の回収見込
ZEB	100	150%	△80%	回収には20年超かかり、回収困難なケースもあり
Nearly ZEB		120%	△60%	15～20年程度で、初期投資額の増分を回収可能
ZEB Ready		112%	△50%	10～15年程度で、初期投資額の増分を回収可能

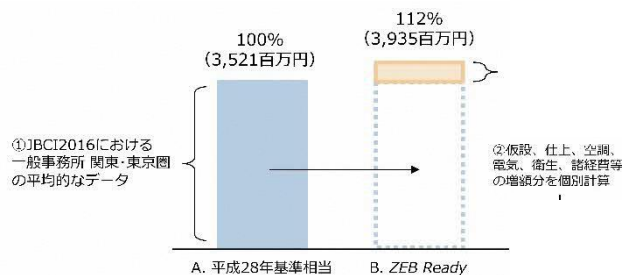
(4) ZEB 化の技術と施設の利用

Nearly ZEB では、外皮性能の向上や省エネ技術に加えて、積極的な創エネ技術の採用が必須となり、さらに ZEB においては、Nearly ZEB の技術をより高効率化し、エネルギーマネジメントを行なうことから、初期投資額が著しく高まり、投資増加分の回収のための「(上手な)使い方」が求められます。利用者のエリアは限定的ですが、不特定多数が使用する用途であることから、本施設において「使い方」の制限は困難と思われ、本計画に Nearly ZEB 及び ZEB の導入は最適とはいえません。

(5) 具体的コスト検討 (ZEB READY の場合)

モデルビル建設地:東京

階数:地上 4 階建 地下階なし 延床面積:3,000 m² 用途:オフィスビル



②増額分の個別計算結果

	増額分 (百万円)	増額含む概算費用 B : ZEB Ready (百万円)	増額率
建築工事仕上 (高断熱/日射遮蔽)	120	1,160	112%
空調設備 (空調+換気)	160	423	161%
電気設備 (照明)	56	393	117%
衛生設備 (給湯)	1	191	100%
昇降機	0	69	100%
仮設	24	246	111%
土工	0	111	100%
地業	0	144	100%
躯体	0	741	100%
諸経費	53	457	113%
合計	414	3,935	112%

出所) 公益社団法人 日本建築積算協会の協力のもと、ZEBロードマップ フォロワーシップ委員会による試算結果に基づ

第三章 事業手法

前ページに示す ZEB Ready を導入したモデルビルのコスト増額率は全体で 112%で、工種ごとの比較では、空調及び電気設備の増額率が高くなっています。しかしこれらの設備工事は、工事費全体に占める割合が低く、金額ベースの増額率は全体の約2.6%に抑えられています。

(6)本計画における ZEB の目標設定

焼津市役所地球温暖化防止実行計画（事務事業編）第6期計画(改定版)において、建築物の建築及び公共工事の設計段階における取組みとして、

- ・省エネルギー・省資源工法を徹底し、温室効果ガスの排出の削減等に配慮した整備に努めます
- ・今後予定する新築の公共施設については、原則 ZEB Oriented 相当以上とし、2030 年度までに新築建築物の平均で ZEB Ready 相当となることを目指します

としていることから、パッシブ技術(断熱・日射遮蔽)とアクティブ技術(高効率空調・照明)を採用し、屋上には太陽光発電システムを設置します。

また前項(1)～(5)より総合的に判断し、本計画に導入すべき ZEB の目標レベルを「ZEB Ready」として計画を進めていきます。

第Ⅲ章 事業手法

Ⅲ-3 概算事業費

◆鉄筋コンクリート造 3階建 床面積約 1,495㎡の概算工事費

工種		金額	備考	
事前整備費	既設駐車場 学校緑地整備	工事費	5,600,000	支障物撤去・整地
		測量費	2,500,000	
		設計費	600,000	
		小計	8,700,000	
建設費	新施設 工事費	建築工事	788,900,000	
		電機設備工事	169,200,000	
		空調換気設備工 事	127,800,000	
		衛生設備工事費	95,300,000	
		小計	1,181,200,000	
	外構整備 工事費	外構整備工事費	146,000,000	貯留槽・駐車場・困障
		小計	146,000,000	
	設計監理費	設計費	63,600,000	基本設計・実施設計
		工事監理費	24,500,000	
		小計	88,100,000	
計		1,424,000,000	円	

工種		金額	備考
その他	プール解体工事費	20,000,000	
	解体設計費	1,500,000	
	小計	21,500,000	
	プール跡地駐車場・緑地整備工事	15,000,000	
	設計費	800,000	
	小計	15,800,000	
	既設交流センター解体工事費	38,000,000	
	解体設計費	2,300,000	
	小計	40,300,000	
	計	77,600,000	円

合計(税別)	1,501,600,000	
消費税(10%)	150,160,000	
総合計(税込)	1,651,760,000	円

第Ⅲ章 事業手法

Ⅲ-4 事業全体スケジュール

以下に、事業スケジュールを示します

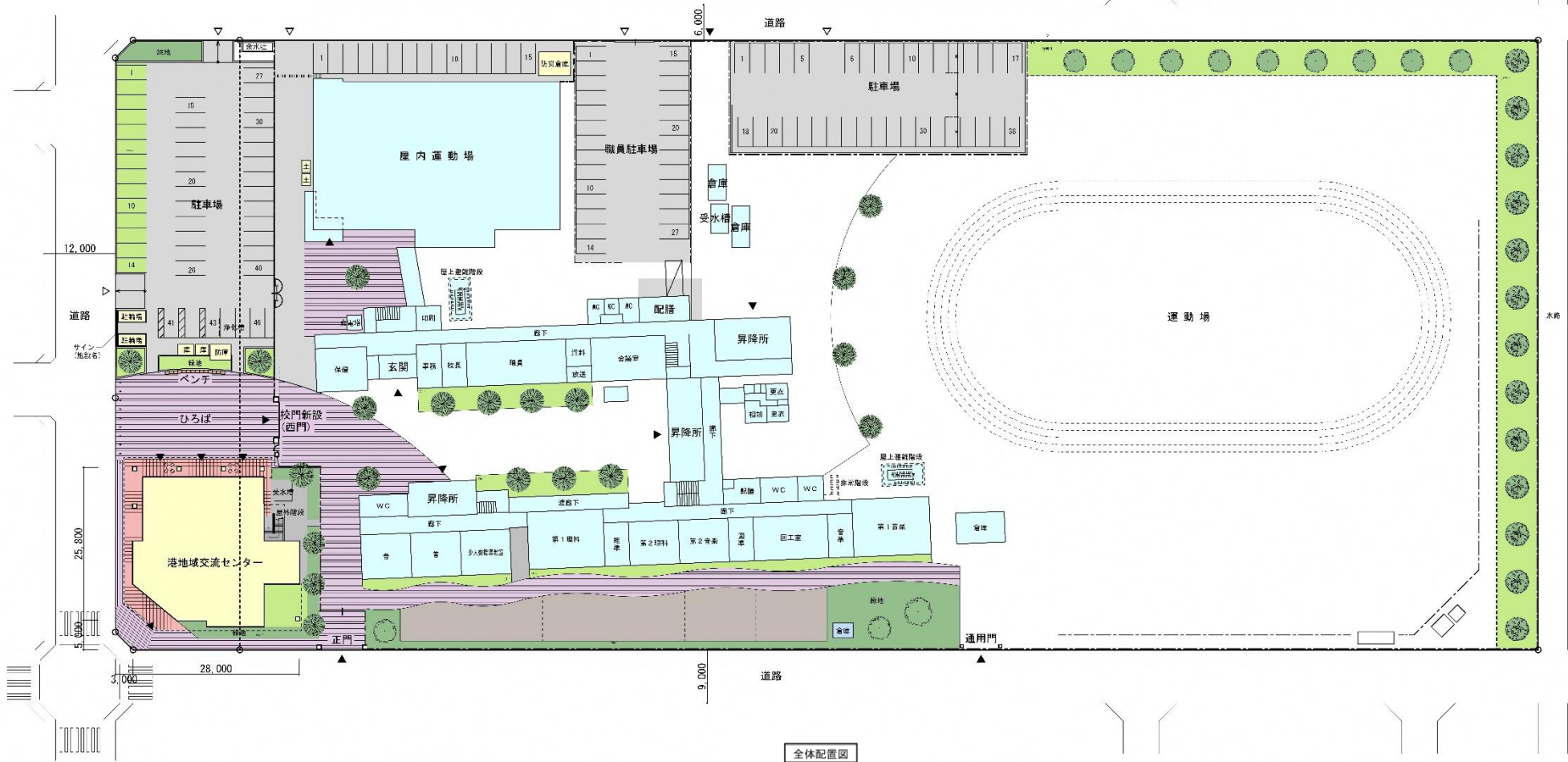
種別	年度	令和7年度				8年度				9年度				10年度				11年度				12年度			
		4 月 6	7 月 9	10 月 12	1 月 3	4 月 6	7 月 9	10 月 12	1 月 3	4 月 6	7 月 9	10 月 12	1 月 3	4 月 6	7 月 9	10 月 12	1 月 3	4 月 6	7 月 9	10 月 12	1 月 3				
建築設計	基本構想 基本計画	■																							
	基本設計						■																		
	実施設計									■															
造成設計	測 量						■																		
諸申請	土地利用 協議 等							■			■														
工事	事前整備工事 (駐車場整備等)									■															
	建設 工事													■											
	解体 工事																		■						
	外構 工事																			■					
	年度	令和7年度				8年度				9年度				10年度				11年度				12年度			

第IV章

基本計画図

第IV章 基本計画図

IV-1 配置図(案)

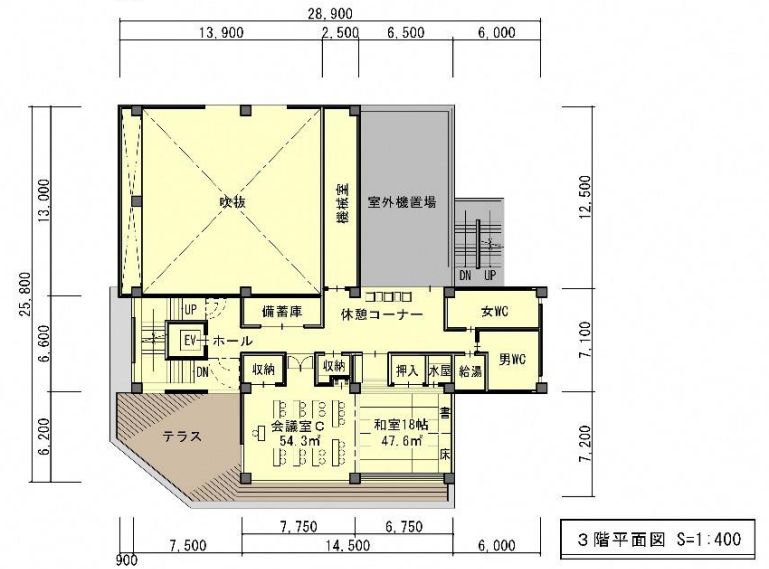
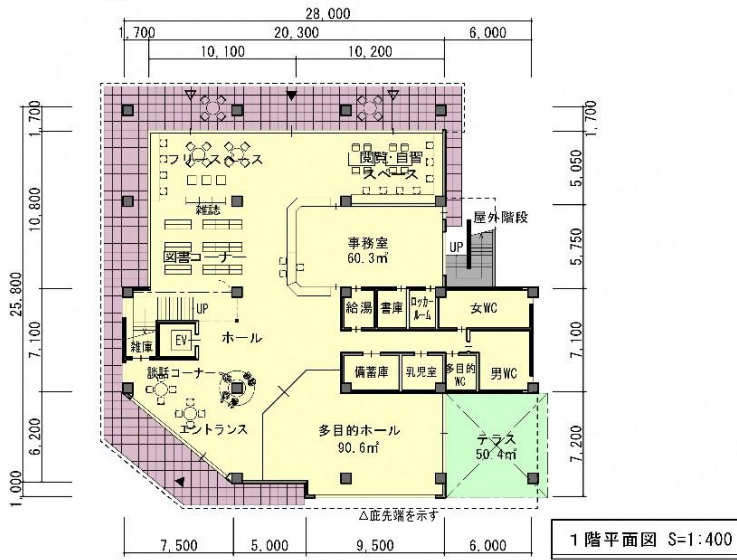
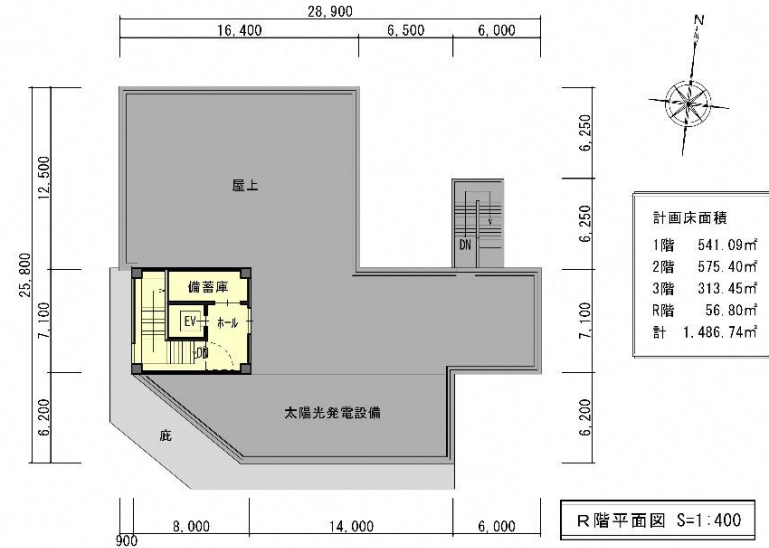
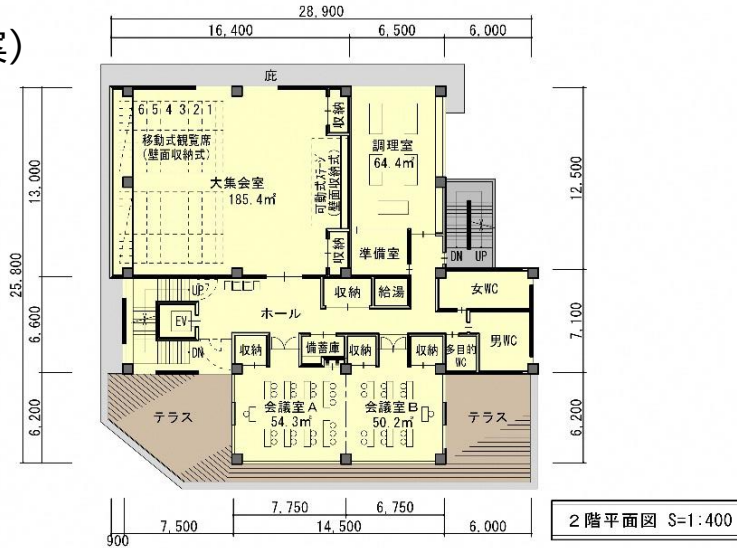


全体配置図

敷地面積 ≒ 24,687㎡ (学校敷地含む)
 緑地面積 ≒ 2,706㎡ (緑地率10.9%)

第IV章 基本計画図

IV-2 平面図(案)



第V章

資料編

港地域交流センター整備基本計画の基礎となる考え方・構想

目 次

第1章 目的と進め方	1
1 目的.....	1
2 前提条件.....	1
第2章 前提条件の整理	3
1 焼津市の総合計画等での位置づけ	3
2 建設予定地区の条件把握.....	4
3 現在の港地域交流センターの概要	6
第3章 検討経過	10
1 港地域交流センター基本構想策定ワークショップ	10
2 ワークショップの進め方と概要.....	11
■ 第1回ワークショップ	12
■ 第2回ワークショップ	24
■ 第3回ワークショップ	43
■ 第4回ワークショップ	50
3 建設候補地について.....	61
4 建て替え検討委員会による市への要望書提出について.....	63
第4章 まとめ	66
1 コンセプト及びキャッチフレーズ	66
2 施設機能の提案	66
3 小学校との複合化について.....	67

第1章 目的と進め方

1. 目的

現行の港地域交流センターは、築40年以上経過し、老朽化が進行するとともに、公共建築物としての機能不足及び災害発生時の危険性等が指摘され、建て替え整備の検討が求められている。本業務は、新たな地域交流センターが防災拠点としての機能を備え、多様な地域住民のニーズに応えたコミュニティの拠点としていくために、ワークショップの開催を通じて地域住民の意向を十分に反映し、整備の基本的な考え方や整備スケジュール等、整備基本構想をとりまとめるとともに、新施設の立地場所、規模、機能、整備手法等の具体化を通じて港地域交流センターの整備基本計画をとりまとめることを目的とする。

2. 前提条件

計画の検討に際しての前提となる条件は次のとおり

(1) 施設名

焼津市港地域交流センター

(2) 事業施行を必要とする理由

今日、国民一人一人が生涯にわたって潤いと生きがいをもって充実した生活を営むことができるよう、生涯学習社会の実現を中核とした社会教育事業等の推進が重要な課題となっている。

近年、その社会教育事業等の推進の担い手としての市町村が提供するサービスの拡充が図られてきているが、今後とも地域住民にとって身近なサービスの提供主体である市町村による社会教育事業等を一層充実していく必要がある。

港地域交流センターは、地域の公民館として1980年に竣工し、地域活動の拠点としてコミュニティの形成はもとより、防災拠点としての役割を担ってきました。しかしながら竣工後44年が経過し老朽化が進んでいること、十分な耐震性が確保できていないこと、ユニバーサルデザインへの対応ができていないことなどの問題を抱えています。

地域の交流拠点として、あらゆる年代の個人・団体の方々の利用を推進することが困難な状態となって久しく、地元自治会を中心に発足した「港公民館建て替え検討委員会」では、広く地域住民の要望を集め、令和2年には、公民館改築を願う要望書が焼津市長宛てに提出されました。

行政としても、多様化したニーズやさまざまな地域課題に対応するため、地域交流センターが市民にとって利用しやすく、地域づくりや地域交流に寄与する施設への転換を目指しているところであり、生涯学習活動のみならず、地域振興につながる新たな交流センターを整備しようとするものです。

(3) 事業計画の概要

① 予定する施設の概要

地域交流センターは、一定地域内の住民を対象とした社会教育施設であり、実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進を図り、豊かな情操を養うとともに、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する生涯教育の場、コミュニティづくりの場としての機能を有するものである。

●中学校単位に1館の設置

本市においては、地域の社会教育活動の拠点となる地域交流センターについて、地理的要因・人口規模等を考慮し、中学校区単位に1館ずつ設置する方針に沿って、順次整備し、地域づくりの中心機関として、上記の活動に努めている。

●機能と役割

計画している当該施設の詳細は、市民の参画によるワークショップにより構想を作り上げていくこととするが、エレベーター、障害者トイレ等、ユニバーサルデザインを取り入れるとともに、機能面では、図書室、調理実習室、子どもたちの遊びの場であるプレイルーム等を設け、市立図書館と連携した図書教育や料理を通じた男女共同参画意識の向上、子育て支援等の現代的課題にあった内容の活動に取り組めるものとしていく。

●地区防災拠点

地域交流センターは、焼津市地域防災計画において、避難所として位置付けられていることから、地域交流センター建物のみならず、緑地及び駐車場部分についても、地区防災拠点として地震・災害等非常時の避難場所としても活用していくこととする。

②予定する施設の概要

ア 敷地面積：地域交流センター敷地として 約 3,000 ㎡

イ 延床面積：約 1,500 ㎡

ウ 構造・階数：鉄筋コンクリート造または鉄骨造 2階又は3階建
(市民参画によるワークショップにより決定していく)

③検討する施設の機能(例)

事務室、多目的ホール、プレイルーム、授乳・調乳室、幼児用トイレ、図書室、研修室、情報コーナー、研修室、美術工芸室、調理実習室、和室研修室、倉庫等
(市民参画によるワークショップにより決定していく)

④事業スケジュール

令和7年度	基本計画 策定
令和8～9年度	基本設計・実施設計
令和9年度	関連工事 ・代替駐車場整備及び倉庫移設 ・計画地内の緑地及びフェンス等 撤去
令和10年度	本体建設工事 着手
令和11年度	本体建設工事 完了

第2章 前提条件の整理

1. 焼津市の総合計画等での位置づけ

(1) 総合計画における位置づけ

総合計画における施策を推進するにあたって、地域交流センターは、自治会を始めとする地域コミュニティ組織とともに、子どもや若者、高齢者と幅広い世代の方々を対象に、地域の交流・活動・交流の拠点としての多様な利活用が求められており、その関連性が示されている内容について、整理し、検討の参考とする。

① 子ども・若者にやさしいまちづくりの推進

- 放課後や休日に安心して、学び・遊び・過ごすことができる児童センターや地域交流センター、地域の公園などのこどもの居場所としての整備のほか、地域住民や NPO 等との連携を通じて、居場所づくりを地域ぐるみで推進します。

② 地域福祉の推進

- 市民に対し、支援が必要な人への関わり方や相談窓口の周知を図るとともに、(地域交流センターが事務局となる地域コミュニティ組織が深く係る)地域における支え合いの体制づくりを推進します。

③ 生きがいづくりの推進

- 講師や受講者が持つ専門性や学びの成果を地域社会で発揮できるよう、新たな講座の創出や発表・交流の場の整備を推進します。
- 多様化する市民ニーズやライフステージに応じ、誰もが気軽に読書や文化・科学等に親しめる質の高い学習・体験機会の提供に努めます。
- 地域交流センター等の持つ機能・利便性について積極的な広報を行い、スマイルライフ推進センター等との連携を強化し、誰もが利用しやすい学習・交流環境を整備します。
- 施設・設備の計画的な保守・修繕及び更新により、継続的に安心・安全な環境を維持し、市民の学びと交流を支援します。

④ 芸術文化の振興と歴史文化の継承

- 市民が多様な文化に触れ、楽しむことができる環境を整えるため、対面によるものに加え、デジタル技術を活用した鑑賞・学習・創作等の機会を提供し、成果発表の場を設けることで、文化活動への参加を促進します。(地域交流センターでの各種講座の実施など)
- 市民、団体、行政が協働し、文化活動を推進することで、芸術文化の振興とともに地域のつながりの強化やシビックプライドの醸成を図ります。(地域交流センターにおける自主講座など)

⑤ 防災・減災の推進

- 避難場所となる地域交流センターも含めた)地震・津波対策施設や流域治水の整備については、国・県との連携を一層強化し、補助制度等を活用しながら、計画的かつ効率的に事業を推

進めます。

(2)災害時の役割についての考察(参考)

市内9箇所の地域交流センターのうち、大村地域交流センター(防災拠点)、焼津地域交流センター(津波避難ビル)が被災時の役割を担っているが、港地域交流センターについては、現在そのような位置づけはない。しかし、各地で頻発する災害を踏まえて、今回の地域交流センター建設においては、市の防災計画に沿って対応する必要がある。

2. 建設予定地区の条件把握

(1) 整備候補地の概況

所在地：焼津市石津港町40-1ほか
敷地面積：約2,700㎡
用途地域：第1種中高層住居専用地域
許容建蔽率：40%
許容容積率：100%

(2) 位置図



(3) 箇所図



3. 現在の港地域交流センターの概要

現在の地域交流センターの施設内容及び利用状況等の概要を整理する。

(1)現在の地域交流センターの建築等の概況

①地域交流センターの設立等

竣工:1980年

開設:1981年

②所在地

焼津市石津港町40-1

③面積、規模、構造

敷地面積: 2,169 m²

延床面積: 900.4 m²

構造: 鉄骨造 2階建

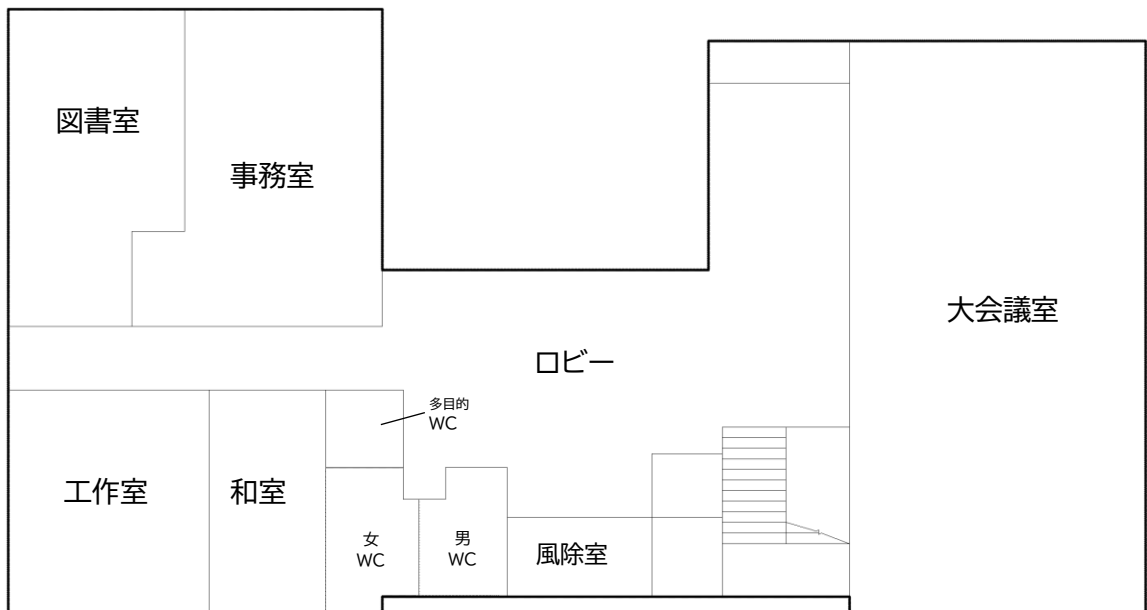
④駐車場

40台(うち2台 車椅子使用者用)

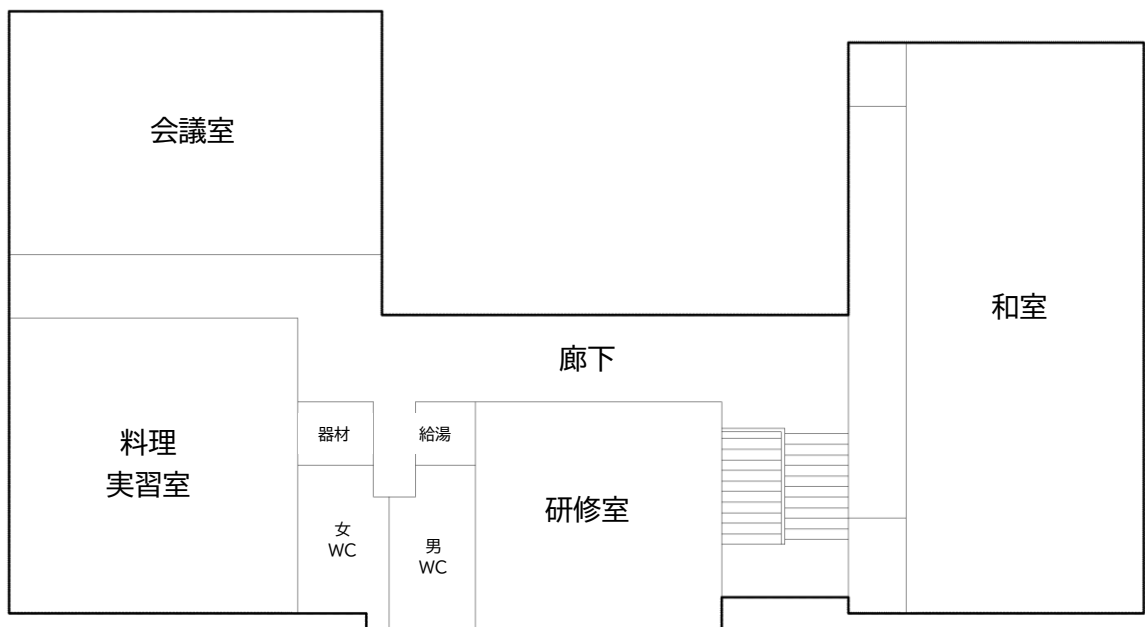


既設建物 外観

(2)現港地域交流センターの平面図



1階 平面図



2階 平面図

(3)利用対象地区及び人口等

本地域の人口、世帯等について、住民基本台帳をもとに参考として整理する

①対象地区：港中学校区

②対象人口：17,950人

③対象世帯数：8,247世帯

港地域の人口及び世帯数

令和8年1月31日現在

※ 本表は住民基本台帳をもとに作成し、一部地区は自治会の対象エリア人口と一致しない

字・地区名	人口 (人)			世帯数
	男性	女性	計	
石津	530	576	1,106	520
石津1丁目	323	324	647	311
石津2丁目	618	611	1,229	544
石津3丁目	498	483	981	358
石津4丁目	117	131	248	118
石津向町	495	491	986	430
石津中町	406	484	890	430
石津港町	672	692	1,364	638
田尻	1,400	1,446	2,846	1,316
田尻北	1,297	1,333	2,630	1,234
下小田	1,134	1,146	2,280	1,071
下小田中町	331	314	645	309
下小田上町	415	437	852	389
北新田	596	650	1,246	579
	8,832	9,118	17,950	8,247

(4) 港地域交流センターの利用状況

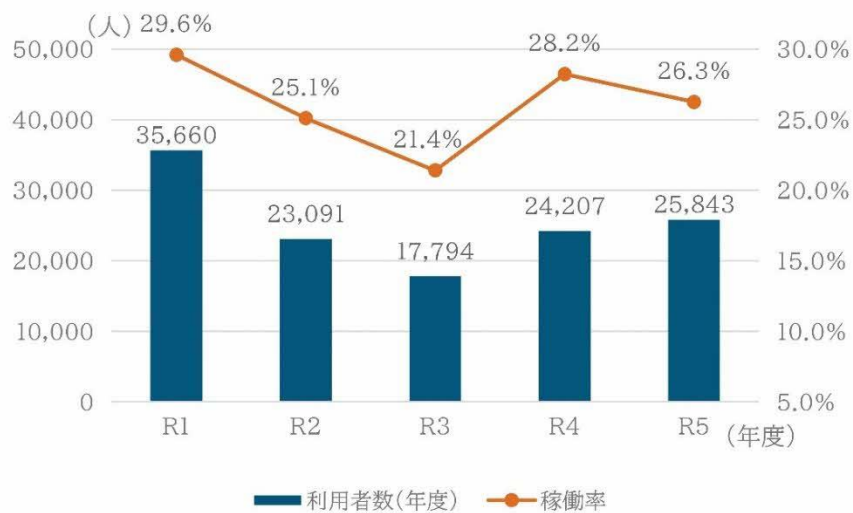
令和元年度から令和5年度までの港地域交流センターの利用状況を整理する

① 利用者数、稼働率の推移

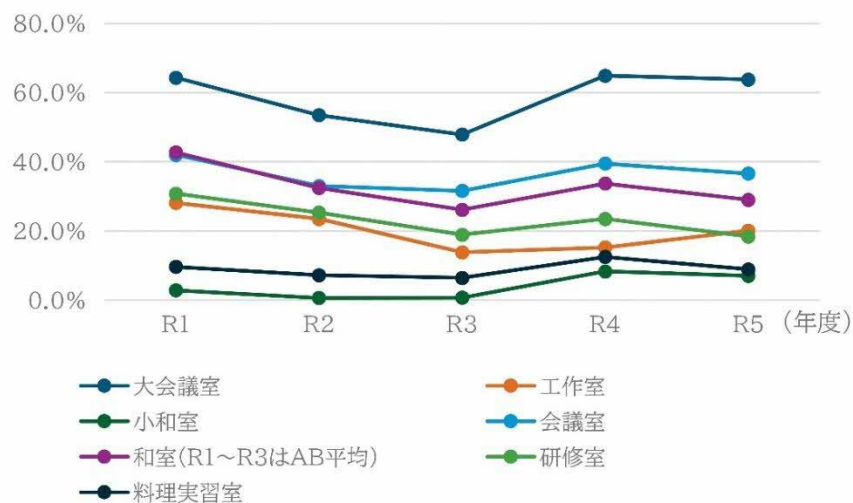
新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度と比較し令和2年度、令和3年度の利用者数は減少、稼働率も低下しています。

令和4年度以降の利用者数や稼働率は、令和3年度と比較して回復傾向にあります。コロナ禍前の令和元年度の水準には達していません。部屋別の稼働率は、「大会議室」が最も高く、次いで「会議室」が高くなっています。

○利用者数(年度)と稼働率



○部屋別の稼働率



第3章 検討経過

1. 港地域交流センター基本構想策定ワークショップ

港地域交流センター基本構想策定ワークショップは、次に示すとおり自治会・コミュニティ代表をはじめ、有識者や交流センター利用者等で構成し、ワークショップ形式で進行した。

ワークショップでは、現在の地域交流センターを利用している住民、関係者の視点からセンターの機能や使い方などの良い点や課題を出し合い、それを踏まえて新たなセンターの機能や利用方法を検討、提案するものとする。また、周辺地域の環境や景観などの特徴を活かした施設づくりを進めるとともに、港地域の住民が地域交流センターに期待する思いを込めた計画づくりを進め、新しい地域交流センターの完成後に住民が利用しやすく、かつ愛着を持って大切にされる施設となることを目的とする。

◆港地域交流センター基本構想策定ワークショップ参加者一覧◆

グループ名	氏名	所属
自治会・コミュニティ代表	前島 政次郎	自治会・コミュニティ関係
	伊藤 恒章	自治会・コミュニティ関係
	渡邊 徹	自治会・コミュニティ関係
	大澤 雅晴	自治会・コミュニティ関係
	大石 壮吾	自治会・コミュニティ関係
	鈴木 春子	自治会・コミュニティ関係
	嶋 芳正	自治会・コミュニティ関係
	原崎 洋一	自治会・コミュニティ関係
	深沢 慶治	自治会・コミュニティ関係
地域交流センター利用者	大石 哲郎	自治会・コミュニティ関係
	奥山 喜代子	交流センター利用者
	北野 八十次	交流センター利用者
	藤井 沙文	交流センター利用者
	藤賀 律子	交流センター利用者
若者世代	長谷川 晴美	交流センター利用者
	片岡 巧	地元住民(若者世代)
	原崎 源洋	地元住民(若者世代)
	丸山 歌乃	地元住民(若者世代)
	橋ヶ谷 建太郎	地元住民(若者世代)
	見崎 綾音	地元住民(若者世代)
学校関係	室山 知穂	地元住民(若者世代)
	多々良 博之	港小学校 校長
	石原 良彦	港中学校 校長
交流センター職員	近藤 香織	港中学校 後援会長
	伊東 義直	地域交流センター 所長

2. ワークショップの進め方と概要

港地域交流センター基本構想策定ワークショップでは、基本構想作成のためのワークショップを4回開催し、住民の意見を反映した計画づくりを進めた。

ワークショップでは、さまざまな立場の参加者で構成した4つのグループでブレインストーミングを行ない、個々のアイデアや断片的な情報をふせん紙に書き出し、KJ法を用いてグルーピングと再構成を行なうことで、創造的発想を導き出し合意形成を図りながら意見集約をおこなった。

最終的な目標として、参加者の意見を踏まえ、基本的な機能の確保と配置、平面、立体的イメージの共有など、今後の実施設計に生かせるような計画案づくりを行うものとした。

日 程	テーマ
第1回 ワークショップ 令和7年6月22日(日) 13:30~15:40	地域交流センターの「課題の共有」と新しい地域交流センターの「あるべき姿」を考える
第2回 ワークショップ 令和7年7月26日(土) 13:30~16:10	「候補地の比較検討」と、新しい地域交流センターの「機能」と「建設方針」の意見共有
第3回 ワークショップ 令和7年9月13日(土) 10:00~11:20	新しい地域交流センターの「候補地の選定」と「建物イメージの具体化」
第4回 ワークショップ 令和7年10月11日(土) 10:00~11:40	「基本構想(敷地利用・平面レイアウト)」に対する意見共有と、「センターと学校の相互利用」について

■ 第1回ワークショップ ■

1. 日時 令和7年6月22日(日)13時30分～15時40分
2. 会場 港地域交流センター 大会議室
3. 出席者

グループ名	氏名	所属
A (4名)	前島 政次郎	自治会・コミュニティ関係
	鈴木 春子	自治会・コミュニティ関係
	原崎 源洋	地元住民(若者世代)
	藤賀 律子	交流センター利用者
B (5名)	大石 壮吾	自治会・コミュニティ関係
	嶋 芳正	自治会・コミュニティ関係
	室山 知穂	地元住民(若者世代)
	深沢 慶治	自治会・コミュニティ関係
	伊東 義直	港地域交流センター 所長
C (5名)	渡邊 徹	自治会・コミュニティ関係
	原崎 洋一	自治会・コミュニティ関係
	北野 八十次	交流センター利用者
	丸山 歌乃	地元住民(若者世代)
	大石 哲郎	自治会・コミュニティ関係
D (4名)	伊藤 恒章	自治会・コミュニティ関係
	大澤 雅晴	自治会・コミュニティ関係
	片岡 巧	地元住民(若者世代)
	石原 良彦	港中学校校長

(事務局) スマイルライフ推進課 増井課長 鈴木主幹 増井主任主査 石橋主査

(コンサル) (株)清水一級建築設計事務所 代表取締役 清水誠一

同上 所員 加藤みゆき

(株)ナイン 渋谷太郎

4. ワークショップの内容

(1)現在のセンターの概要と課題 配布資料P2～P8をコンサルより説明

(2)意見交換会のふり返り 配布資料P9～P14 をコンサルより説明

(3)「候補地」について 配布資料P15～P22 をコンサルより説明

(4)グループワーク①

◆「だれもが行きたくなる施設」「だれにとっても使いやすい施設」について
グループ別に意見交換を実施

項目	グループ	意見
行きたくなる雰囲気 ・ 欲しい部屋	A	青少年が集まる条件を考えるべき 赤ちゃん(お母さん)等、ふれあいができる場所 幼児期サークルを子連れでできるような場所 キッズスペース 待ち合い場所(冷暖房・フリースペース) バーカウンター(コーヒー・紅茶・緑茶 自前のサロンに) 参考として、 豊田地域交流センターの事例を知りたい 焼津地域交流センターのテーブル・チェアのスペースが良い 小川地域交流センターのロビーのソファ・テーブルが良い
	B	仲間と食事ができる くつろげるスペース みんなが気楽にくつろげるフリースペース 雰囲気が明るい 明るくいろんな事ができるスペースがほしい 運動ができるスペース 本が充実した図書館 若い人たちも楽しめるスペース、多目的ホールがあった方がいい
	C	明るい雰囲気 フリーで話ができるスペース コーヒーショップのあるスペース サロン風を感じられる簡易的なくつろぎスペース ロビーを広めにしてほしい お年寄りが、ふと寄りたくなる、雑談できる場、コーヒーが飲める 複数人でも使用できるスペ目立つシンボルがある わかりやすい場所
	D	スポーツができる多目的ホール、バスケットができる広さ 身体を動かすことができる広い会議室 調理室 勉強ができる自習スペース 気軽に立ち寄りやすいフリースペース 広い図書室 個人席があるスペース 入りやすい図書室 学習室 老人がひとりでも居られる(本・新聞・テレビ・パソコン)
使い方	A	若者が集まるイベント

使い方		女性向け 生き方の勉強会 高齢者の集いの場 外国の方との交流の場 自習スペースが必要(図書室とは別にすべき) まちかど書架(寄付された本・雑誌を読める場)
	B	子どもから高齢者まで多年代が関われるイベントが開催できれば、一体感が生まれる 学校と隣接しているので、児童が立ち寄れる施設
	C	個人の自習室・静かな図書室 ニュースポーツができる(多目的な活用ができる)スペース 子どもがゲームをできるスペース 子どもが登れる遊具がある 駄菓子がある スケボーのできるスペース 若者が楽器を楽しめる、本がある、映像が楽しめる 大ホールでダンス教室(全身が映るミラー) 屋上で星を観察できるスペース
	D	演奏会 ふれあい講座 発表会 講座を多く 毎週マルシェができる 食事会
だれにとっ ても使いや すい	A	トイレを車いす対応にしてほしい おむつ交換ができる場が欲しい 小児男子用便器を設置してほしい 付帯設備(ポット・湯・ウォーターサーバー) Wi-Fi(電子機器が使いやすいように) 充電用のコンセント
	A	会議でパソコン電源を使いたい 液晶ディスプレイのスクリーンが欲しい
	B	防音の部屋があったら使用範囲が広がる 音楽・音を出しても防音の対応がある施設 オーディオ設備が充実している 館内の案内が充実している 予約なしでも利用できる
防災	A	防災時に雨水を利用できるように LED 照明で節電 冬の避難時に暖房運転ができる充電設備 災害時の必要品は別途検討が必要 災害時に寝泊まりできるよう小学校との連携 越水対策をしてほしい 無線(ハム無線所持者)の連絡網
	B	港が近い 台風時大丈夫?
	C	災害一時避難場所としての機能を持っていること 防災の時集まりやすい 広い場所に面している 屋上にヘリポート スロープがある 3階の上に屋上避難所を
	D	防災上の避難所となりうる施設及び機能
駐車場	B	駐車場が利用しやすい イベント・会合の規模に合った駐車場

(5)グループワーク②

◆「候補地」を比べてみる

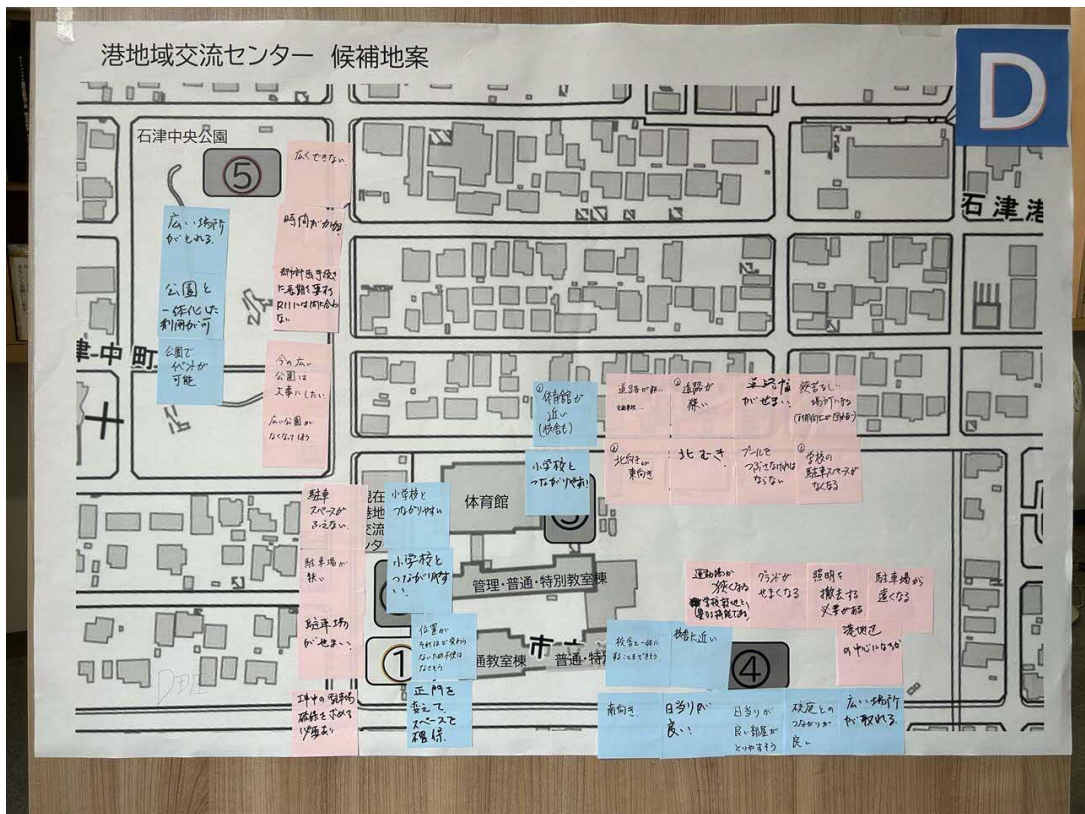
各候補地の「良い点」のまとめ

候補地	グループ	意見
①②案	A	渡り廊下にて小学校と連絡がとれる 駐車場のスペースがとれる(工事中は青島ポンプ工業の土地を借りる) ②がベスト。駐車場は他(公園)などに仮設
	B	駐車場に近い 出入りがしやすい 使い勝手が良い 広い道路に面して入りやすい 日当たりが良い
	C	なじみがある 学校との連携がとりやすい 校舎と合築ができる 3階建てなら良い 校舎への接続が良い 道路幅が広い 小学校に近い 日当たりが良い 2階 or 3階 小学校と繋がるように わかりやすい場所
	D	小学校とつながりやすい (現施設と)位置がそれほど変わらないため不便はなさそう 正門を変えてスペースを確保できる
③案	A	—
	B	体育館との一体化ができる
	C	工事中には交流センターに影響がない
	D	体育館に近い 校舎に近い
④案	A	—
	B	現状グラウンドなので建築しやすい 駐車場が多くなる
	C	小学校の出入りがしやすい 日当たりが良い 運動場を利用したいとき有効 南向き
	D	南向き 日当たりが良い 日当たりが良い部屋がとりやすそう 校舎とのつながりが良い 広い場所がとれる
⑤案	A	—
	B	雰囲気が良い 緑がある
	C	公園の中で環境が良い

		様々な点で理想的
	D	広い場所がとれる 公園と一体化した利用が可 公園でイベントが可能

各候補地の「悪い点」のまとめ

候補地	グループ	意見
①②案	A	②は浄化槽が建物にかかり(工事中は)トイレ使用ができない
	B	駐車スペースが現状と変わらない 植物を壊してしまう
	C	正門が使いにくくならないか心配 ②は南向きが少なくなる
	D	駐車台数が増えない 駐車場が狭い ×2名 工事中の駐車場の確保を求める必要あり
③案	A	道路が狭い 通学路はどうするのか 現施設との距離が遠い
	B	近所に迷惑がかかる 道路が狭い 工事がしにくい
	C	北からグラウンドに入りづらい 近所の人たちにとっても気がかりな場面があるかも 駐車スペースが離れている 施設の利用に適していない 学校との連携がうまく図れるか
	D	道路が狭い(交通事故が心配) ×3名 狭苦しい場所になる(利用向上が図れるか) 北向き or 東向き 北向き プールをつぶさなければならない 学校の駐車スペースがなくなる
④案	A	野球グラウンドを確保してあげてください 子供達の安全確保を
	B	現施設の駐車場から遠くなる
	C	だれでも小学校の敷地に入りやすくなる 現施設の駐車場から遠すぎる(雨天時) 駐車スペースが現施設と離れている (現施設の)駐車場から遠い 駐車場がどこになるか気がかり
	D	運動場が狭くなる(学校敷地と異なる機能である) グラウンドがせまくなる 照明を撤去する必要がある 現施設の駐車場から遠くなる
⑤案	A	公園法で建設が難しい グラウンドゴルフができなくなる(現在 毎朝利用 高齢者サロン) 橋・梅の木はどこへ行くの



(6)グループ発表(発表順)

Dグループ発表者 片岡委員
 Bグループ発表者 室山委員

Cグループ発表者 丸山委員
 Aグループ発表者 藤賀委員





(7)グループ発表に対する講評

グループワーク①では、交流センターのあり方を考えていただき、海に近いこの地域の皆さんならではのご意見をいただきました。行きたくなる施設にするためには、明るく入りやすい雰囲気、こどもたちや子育て世代が使いやすい建物を期待するものが多かった。

グループワーク②の候補地の検討においては、前段で都市公園法や建設スケジュールに触れたこともあり、候補地⑤が現実的ではないというご意見を多くいただきました。また、道路条件や近隣宅地との関係性から、候補地③も現実的ではないというご意見を多くいただき、候補地は①②④の3箇所に絞り込まれつつあるという印象があった。この候補地選定については次回のワークショップで比較表を見ていただいた上で絞り込んでいく。

5. 考察

「だれもが行きたくなる施設」「だれにとっても使いやすい施設」というテーマでグループワークを進めたところ、「明るく雰囲気の良い空間」「こどもからお年寄りまでが居心地よく過ごせる空間」という施設像が見えてきている。

「フリー」「多目的」というワードが多く聞かれ、個人もグループも自由に使える空間が求められている。年代を問わず、予約なしに訪れ、広々としたカフェのような空間の一角で過ごすようなイメージが一般化しつつある。一方で、従来の公民館や体育館のような機能に音響設備を併せ持つ多目的ホールや、デジタル対応の会議室も求められ、設備的要求が高まっている。

候補地の選定については、現状の交流センターの位置が住民に好意的に受け入れられている反面、都市公園法による制約と、公園のみどりや広場を失くすことへの抵抗が大きいことがわかった。防災への対応、学校との連携も、グループワーク①②のいずれにおいても重要視されている。また、道路条件も使いやすさに直結すること、近隣宅地への影響が懸念される場所にも抵抗感があり、今回のワークショップを通じて、候補地は①②④の3箇所に概ね絞り込まれたといえる。これについては、次回ワークショップで 5 候補地の比較表を提示することで明確になるとと思われる。

■ 第2回ワークショップ ■

1. 日時 令和7年7月 26日(土)13時 30分～16時10分

2. 会場 小川地域交流センター 会議室1

3. 出席者

グループ名	氏名	所属
A (5名)	伊藤 恒章	自治会・コミュニティ関係
	渡邊 徹	自治会・コミュニティ関係
	室山 知穂	地元住民(若者世代)
	多々良 博之	港小学校 校長
	伊東 義直	地域交流センター 所長
B (6名)	前島 政次郎	自治会・コミュニティ関係
	大澤 雅晴	自治会・コミュニティ関係
	奥山 喜代子	交流センター利用者
	藤井 沙文	交流センター利用者
	丸山 歌乃	地元住民(若者世代)
	長谷川 晴美	交流センター利用者
C (6名)	大石 壮吾	自治会・コミュニティ関係
	原崎 洋一	自治会・コミュニティ関係
	原崎 源洋	地元住民(若者世代)
	見崎 綾音	地元住民(若者世代)
	石原 良彦	港中学校 校長
	近藤 香織	港中学校 後援会長
D (6名)	鈴木 春子	自治会・コミュニティ関係
	嶋 芳正	自治会・コミュニティ関係
	北野 八十次	交流センター利用者
	片岡 巧	地元住民(若者世代)
	橋ヶ谷 建太郎	地元住民(若者世代)
	深沢 慶治	自治会・コミュニティ関係

(事務局) スマイルライフ推進課 増井課長 鈴木主幹 増井主任主査 石橋主査

(コンサル) ㈱清水一級建築設計事務所 代表取締役 清水誠一

同上 所員 加藤みゆき

㈱ナイン 渋谷太郎

同上 コミュニティデザイナー 水野優子

4. ワークショップの内容

(1) 建設候補地についてのふり返し 配布資料P3～P10 をコンサルより説明

(2) 施設についてのふり返し 配布資料P11～P16をコンサルより説明

(3) 施設内の見学

(4) グループワーク①

◆「建設候補地」に関する意見共有

意見交換を実施

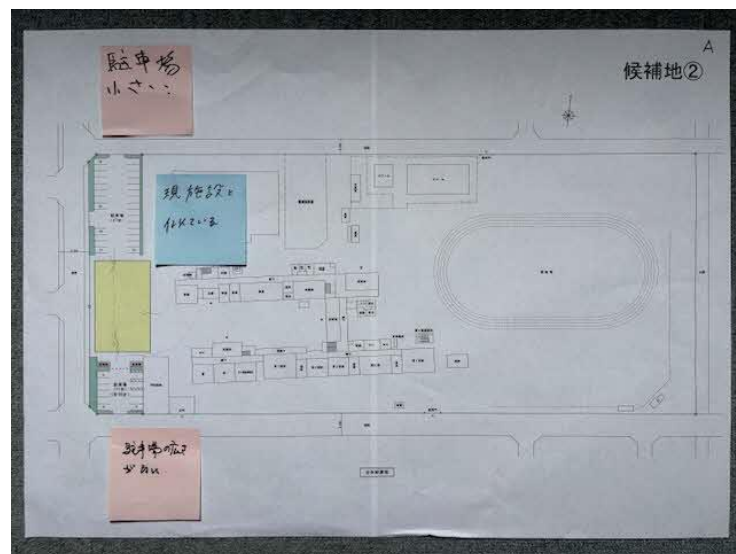
項目	グループ	意見
各候補地 に対する 意見 (グループ別)	A	<ul style="list-style-type: none"> ①駐車場が狭い ①交差点の見晴らしが悪い ①正門に変更が生じる(工事中危険) ①学校(校舎)とかなり近くなる ①正門からの通路が確保できない ①工事音、危険 ②現施設と似ている ②駐車場が狭い ②駐車場の広さがない ④プールを解体して遊具を移動 ④バックネットを変える ④駐車場が広い ④運動場を利用しやすい ④日当たりが良い ④トラックが確保できない ④運動場が狭くなる ④運動会は実施が難しくなる ④防球フェンス、ナイター施設の移設が必要になる
	B	<ul style="list-style-type: none"> ①子供たちが立ち寄りやすい ①駐車場が出入りしやすい ①1階を駐車場としたら駐車場不足が解消でき浸水対策にもなる ①駐車場が狭いので体育館側に広げられたらよい ①駐車場不足が懸念される 立体駐車場が必要か ②駐車場が少ないので体育館の西側に増やす ②駐車場が入りづらい ②駐車場が少ない ②学校敷地を駐車場にする ④通学路のため車両の出入りに注意が必要 ④現施設の跡地を駐車場として利用できる
各候補地 に対する 意見 (グループ別)	C	<ul style="list-style-type: none"> ①建物の形が良い(たて長でない) ①建物の周りに十分なスペースがある ①学校の正門がどうなるか ①港小と隣接しているので相互交流、利用できる方法はどうか ①小学校とつなぐ→誰でも入れてしまう安全面の問題 ①駐車場の台数がいつも不足している ②(建物の)入り口を前後2箇所にしなければならない ②駐車場の出入りが学校の正門の隣では危険ではないか ②車の出入りで交差点が混んでしまう ②駐車場が分断されてしまう ④現在の駐車場が遠くなる ④運動会では南側のスペースがとれない ④トラック脇のスペースが狭すぎる

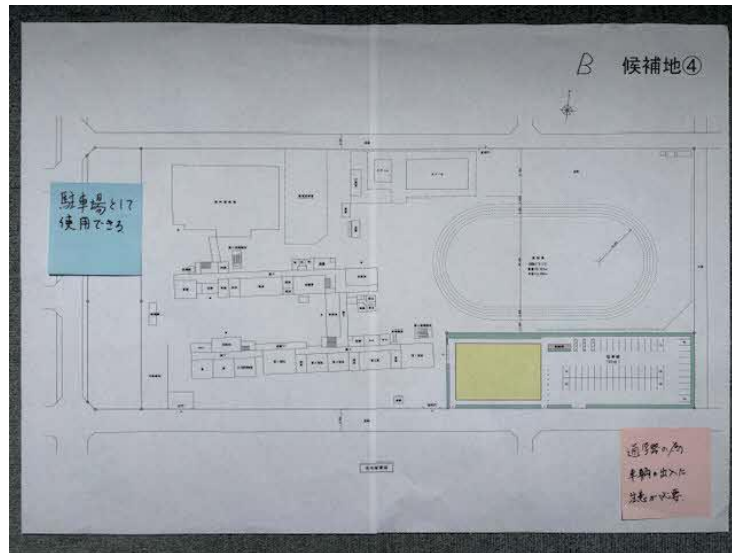
		<p>④学校の活動がかなり限られる ④土地が現在の場所より低い(だろう)</p> <p>①南向きの日当たりが良い ①場所としてはわかりやすくて良いと思う。みんなが知っている ①道路の角地で目印になる</p> <p>①駐車場が1箇所になると道路が混雑するのでは？ ①正門が狭くなる。一般来校舎が不便しないか？ ①以前運動会の時に駐輪場として使っていた場所はどうするのか ①駐輪場の数はどのくらいか ①追加の駐輪場の検討 ①小学校の正門からの通路幅は確保できるか ①建物を高くして駐車場を増やしてほしい(4階でもいいか)</p> <p>②学校への影響が少ない ②今の駐車場は児童の課外活動のバスの乗降場として使っているが1箇所当たりが狭くなるとどうなるか？ ②南向きが少ないので日当たりが減る ②駐車場がわかれている。混んだ時移動しづらい ②駐車台面数を増やしたいので建物を3階 or 4階と高くしたい</p> <p>④(現施設跡地を含めれば)駐車場が広く使える ④グラウンドが狭くなり不便 ④グラウンドが日陰になる ④野球をやっている少年グループがいる ④野球・サッカー等を子供たちに楽しんでほしい</p>
<p>各候補地 に対する 意見 (候補地別)</p>	<p>D</p> <p>①</p>	<p>①子供たちが立ち寄りやすい ①駐車場が出入りしやすい ①場所としてはわかりやすくて良いと思う。みんなが知っている ①道路の角地で目印になる 【立地に関すること 4件】</p> <p>①建物の形が良い(たて長でない) ①南向きの日当たりが良い 【日当りに関すること 2件】</p> <p>①建物の周りに十分なスペースがある【建物配置に関すること 1件】</p> <p>①1階を駐車場としたら駐車場不足が解消でき浸水対策にもなる ①駐車場が狭い ①駐車場が狭いので体育館側に広げられたらよい ①駐車場不足が懸念される 立体駐車場が必要か ①駐車場の台数がいつも不足している ①駐車場が1箇所になると道路が混雑するのでは？ ①建物を高くして駐車場を増やしてほしい(4階でもいいか) 【駐車場の不足 7件】</p> <p>①以前運動会の時に駐輪場として使っていた場所はどうするのか ①駐輪場の数はどのくらいか ①追加の駐輪場の検討 【駐輪場に関すること 3件】</p> <p>①交差点の見晴らしが悪い ①学校(校舎)とかなり近くなる</p>

各候補地 に対する 意見 (候補地別)		<p>①正門からの通路が確保できない</p> <p>①学校の正門がどうなるか</p> <p>①港小と隣接しているので相互交流、利用できる方法はどうか</p> <p>①小学校とつなぐ→誰でも入れてしまう安全面の問題</p> <p>①正門が狭くなる。一般来校舎が不便しないか？</p> <p>①小学校の正門からの通路幅は確保できるか</p> <p style="text-align: right;">【学校への影響 8件】</p> <p>①正門に変更が生じる(工事中危険)</p> <p>①工事中の音, 危険</p> <p style="text-align: right;">【工事中の学校への影響 2件】</p>
	②	<p>②現施設と似ている</p> <p>②学校への影響が少ない</p> <p style="text-align: right;">【立地に関すること 2件】</p> <p>②駐車場が狭い</p> <p>②駐車場の広さがない</p> <p>②駐車場が少ないので体育館の西側に増やす</p> <p>②駐車場が入りづらい</p> <p>②駐車場が少ない</p> <p>②学校敷地を駐車場にする</p> <p>②駐車場が分断されてしまう</p> <p>②駐車場がわかれている。混んだ時移動しづらい</p> <p>②今の駐車場は児童の課外活動のバスの乗降場として使っているが1箇所当たりが狭くなるとどうなるか？</p> <p>②駐車場台数を増やしたいので建物を3階 or 4階と高くしたい</p> <p style="text-align: right;">【駐車場の不足 10件】</p> <p>②駐車場の出入りが学校の正門の隣では危険ではないか</p> <p>②車の出入りで交差点が混んでしまう</p> <p style="text-align: right;">【駐車場への出入りに関すること 2件】</p> <p>②(建物の)入り口を前後 2 箇所にしなければならない</p> <p style="text-align: right;">【建物の出入りに関すること 1件】</p> <p>②南向きが少ないので日当たりが減る</p> <p style="text-align: right;">【日当たりに関すること 1件】</p>
	④	<p>④(現施設跡地を含めれば)駐車場が広く使える</p> <p>④現施設の跡地を駐車場として利用できる</p> <p>④(現施設跡地を利用すると)駐車場が広い</p> <p style="text-align: right;">【駐車場に関すること 3件】</p> <p>④プールを解体して遊具を移動</p> <p>④バックネットを変える</p> <p style="text-align: right;">【グラウンドに関すること 2件】</p> <p>④日当たりが良い</p> <p style="text-align: right;">【日当たりに関すること 1件】</p> <p>④(施設・駐車場から)運動場を利用しやすい</p> <p style="text-align: right;">【施設とグラウンドの関係 1件】</p>
	④	<p>④トラックが確保できない</p> <p>④運動場が狭くなる</p> <p>④防球フェンス, ナイター施設の移設が必要になる</p> <p>④トラック脇のスペースが狭すぎる</p> <p>④グラウンドが狭くなり不便</p> <p>④グラウンドが日陰になる</p>

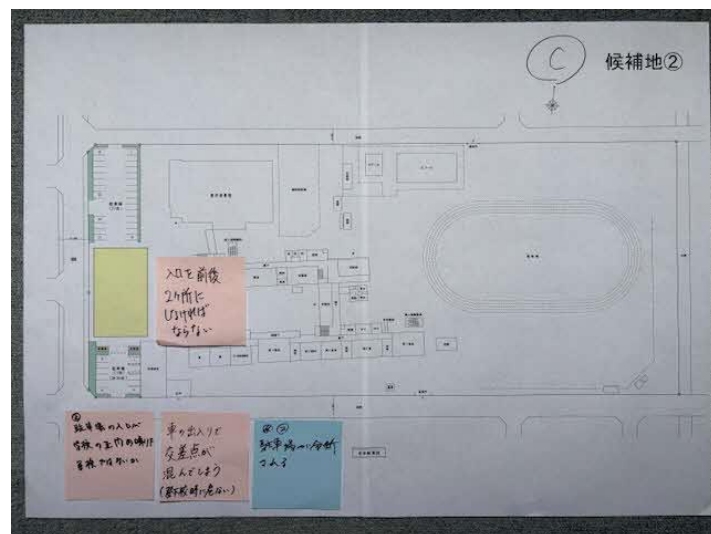
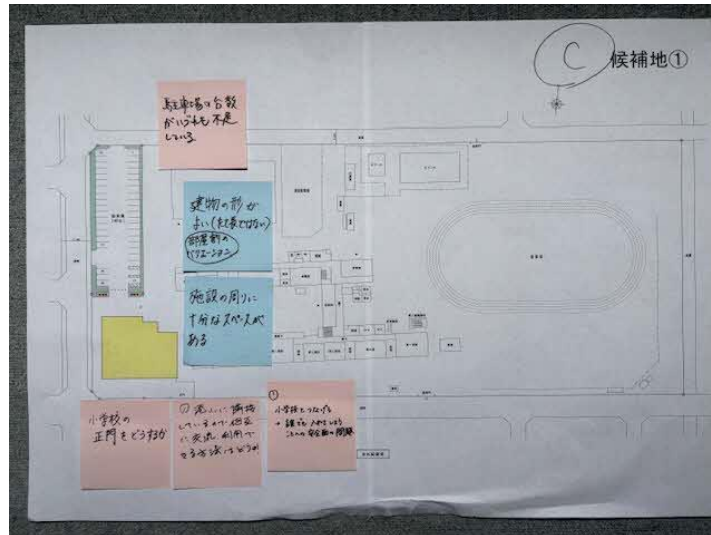
<p>各候補地 に対する 意見 (候補地別)</p>	<p>④</p>	<p>④野球をやっている少年グループがいる ④野球・サッカー等を子供たちに楽しんでほしい 【グラウンドへの影響 8件】</p> <p>④運動会では南側のスペースがとれない ④運動会は実施が難しくなる ④学校の活動がかなり限られる 【学校及び各種行事への影響 8件】</p> <p>④通学路のため車両の出入りに注意が必要 【駐車場への出入りに関すること 1件】</p> <p>④現在の駐車場が遠くなる 【駐車場に関すること 1件】</p> <p>④土地が現在の場所より低い(だろう) 【立地に関すること 1件】</p>
---	----------	--

グループA



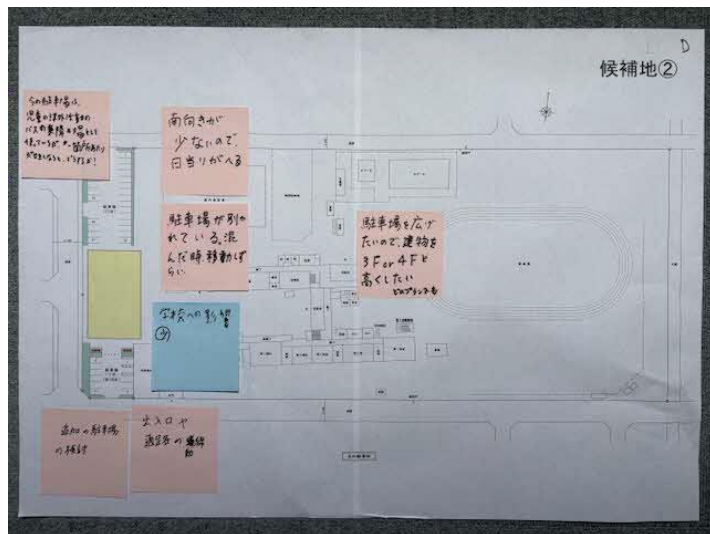


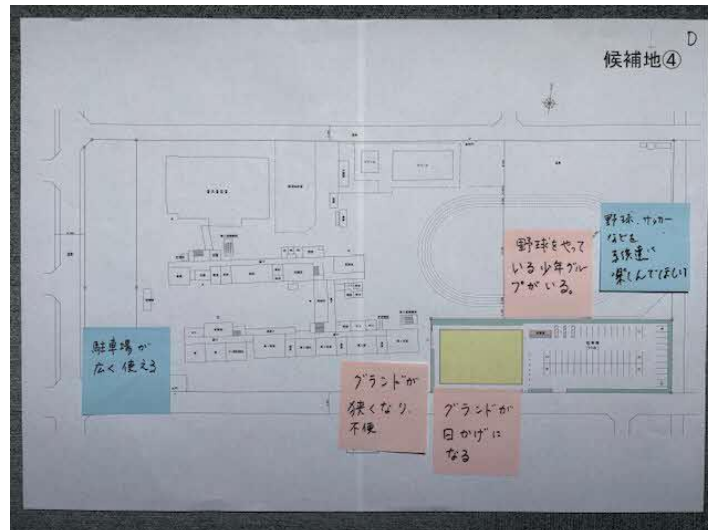
グループC





グループD





(5)グループワーク②

◆「施設」に関する意見共有

必要と考える「部屋」とレイアウト（階と位置を検討）

グループ	階	意見
A	1階	フリースペース キッズスペース 多目的ホール 図書室 事務室
	2階	コンピュータールーム 自習室 インターナショナルスペース 会議室×2
	3階	和室 クーリングシェルター 調理室 工作室 テラス 備蓄倉庫
	屋上	天文台 太陽光 蓄電池 屋外階段（一般）開放
B	1階	フリースペース 広いロビー 講座ごとのロッカー キッズルーム 多目的ホール 図書室 自習室 オストメイトトイレ
	2階	和室大広間(畳敷) 談話室 工作室 防音シアタールーム
	3階	調理室 会議室(大小・室数を多く) 研修室
	屋上	屋外階段
C	1階	ロビー ふれあい室 キッズルーム(子供用トイレ・授乳室) 図書室 事務室 多目的ホール
	2階	自習室 図書室 工作室 調理室
	3階	会議室(大・中・小) 和室
	屋上	ヘリポート 屋外階段
D	1階	フリースペース(おしゃべり・子育て相談・生活相談・外国人との交流) プレイルーム(キッズルーム) 会議室 多目的ホール(音楽・軽スポーツ・ 防音) 事務室 図書室 生涯学習室
	2階	大集会室 会議室 自習スペース 調理室(食事会も楽しむ) 和室
	3階	会議室 若者(向けのスペース) 防災倉庫
	屋上	ヘリポート 展望台 太陽光

※ 各グループ・各階共通 : 多目的トイレ トイレ エレベーター 屋外階段

新施設の建設方針とキャッチフレーズ

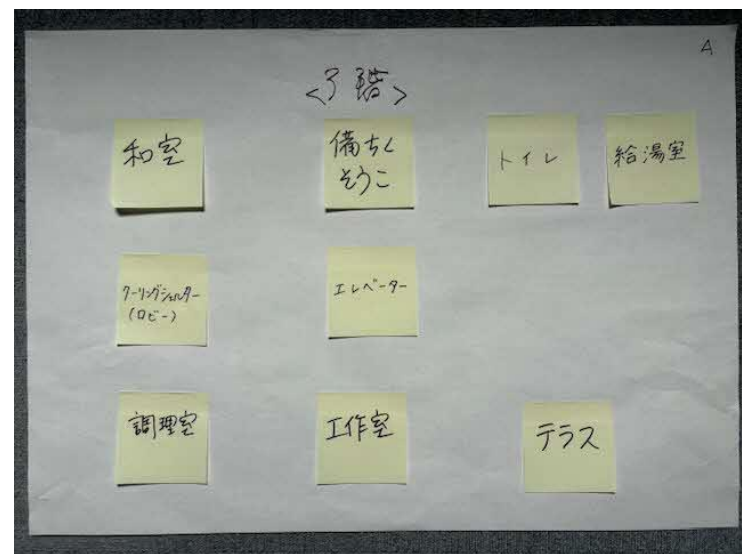
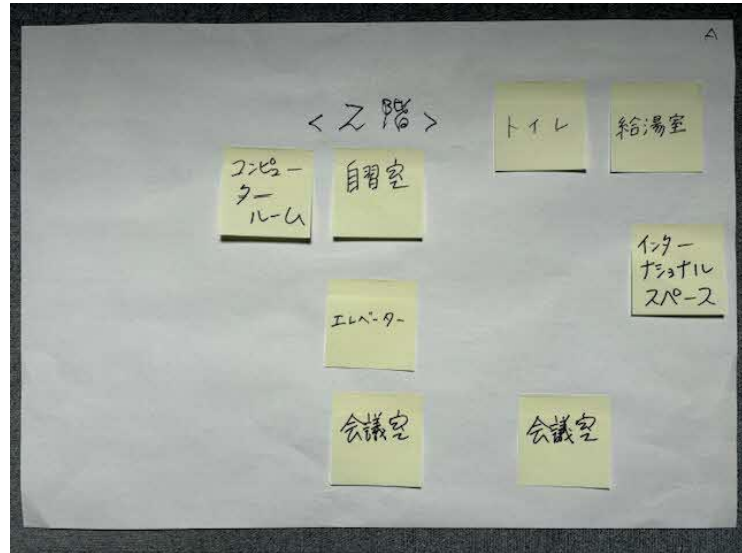
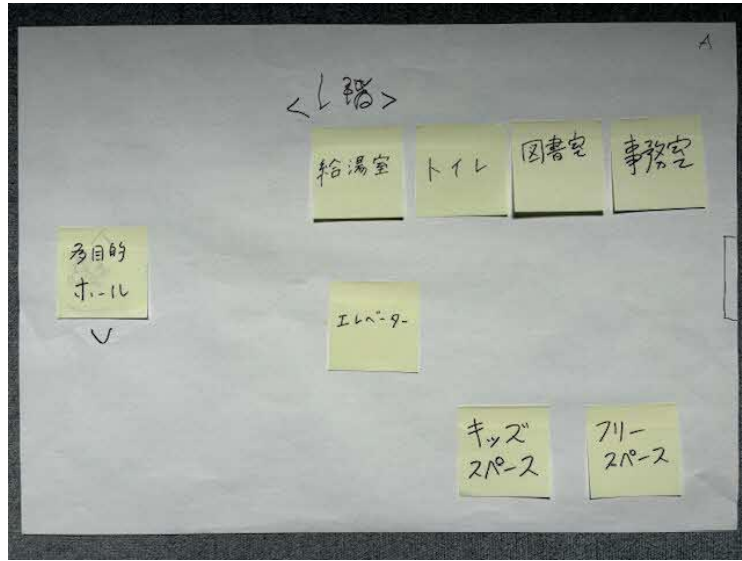
グループ	項目	まとめ
A	候補地	④
	レイアウトの方針	①気軽な1階、静かな2階、動いて学ぶ3階 ②開放的な屋上 ③多目的ホール・テラス・インターナショナルルーム
	キャッチフレーズ	『新しい時代の中で出会い、触れ合い、学び合う』
B	候補地	①
	レイアウトの方針	①1階:気軽に立ち寄れるスペース ②2階:講座等で頻繁に使用する特別室 ③3階:自由に使用できる部屋
	キャッチフレーズ	『ふらっと寄れる ほっとする』
C	候補地	①
	レイアウトの方針	①子連れに優しい ②誰でも気軽に入れる ③学びや体験
	キャッチフレーズ	『とにかく来るさ! みなとっこひろば』
D	候補地	①
	レイアウトの方針	①誰でも入りやすい ②目的を持った活動 ③目新しさ
	キャッチフレーズ	『親しみやすい、使いやすい 集いのセンター(中心)』

集約してキャッチフレーズ化

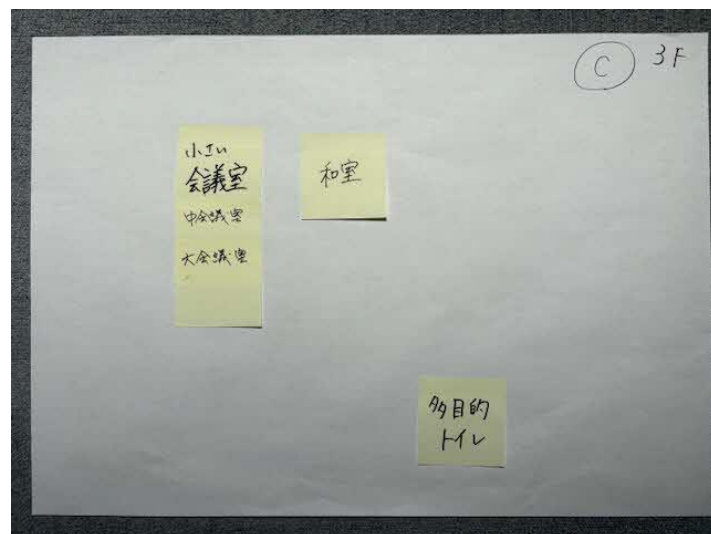
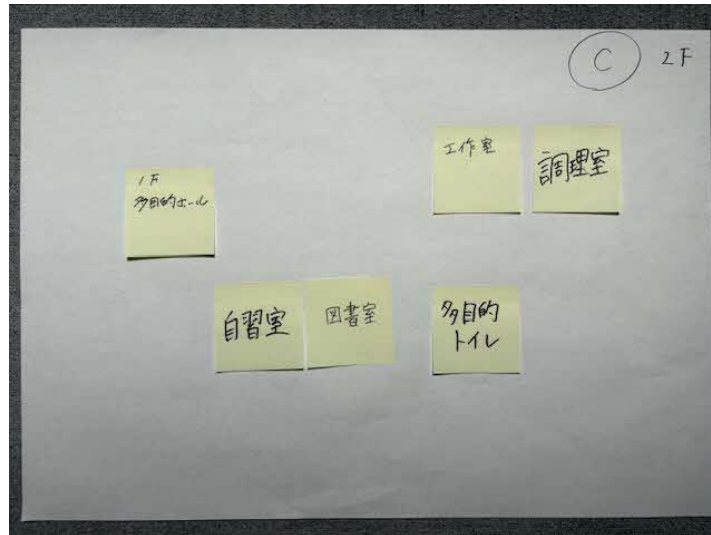
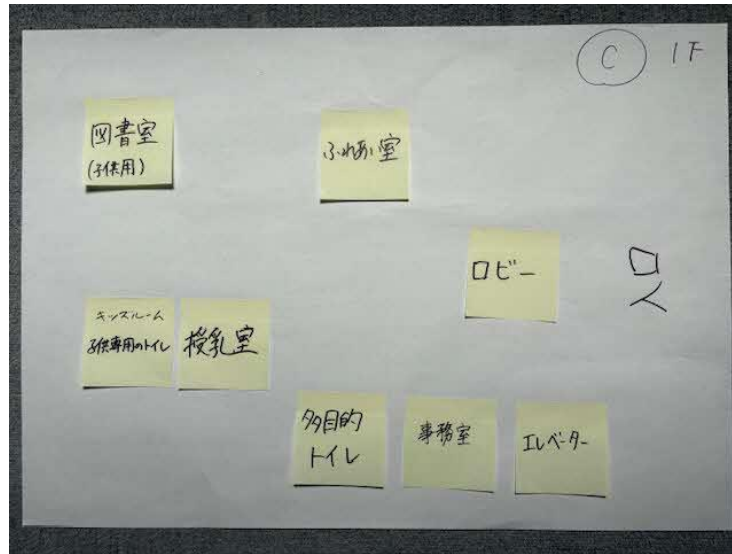


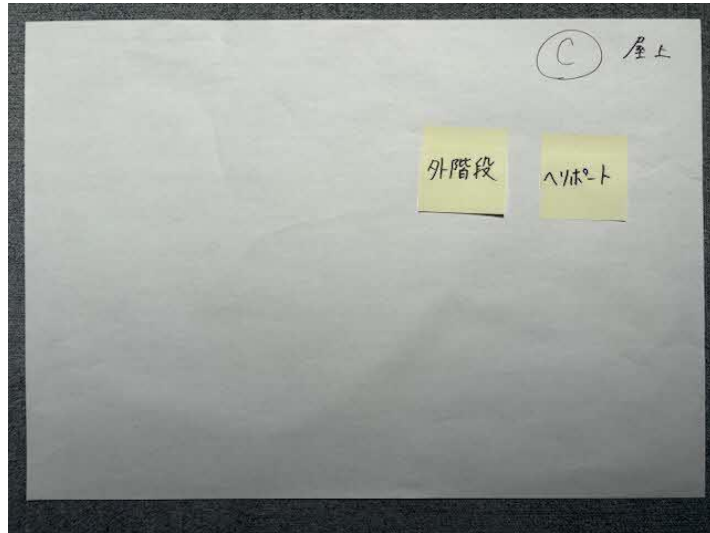
第1回ワークショップから仮定する新施設のイメージ	『明るく、くつろぎのある空間』 『こどもからお年寄りまで、居心地よく過ごせる空間』 『個人もグループも、フリーに多目的に使える空間』	
新施設の建設方針	気軽 優しい 親しみやすい ほっとする 子連れ 誰でも 気軽に 学ぶ 体験する	『誰もが気軽に立ち寄れる施設』 ➔ 『親しみやすくほっとする施設』 『体験し学び合える施設』
キャッチフレーズ	新しい時代 出会い 触れ合い 学び合う ふらっと ほっと 来るさ! みなとっこ ひろば 集いのセンター(中心)	『ふらっと来るさ!』 ➔ 出会い、触れ合い、学び合う、 みなとっこのセンター(まんなか)に

グループA



グループC





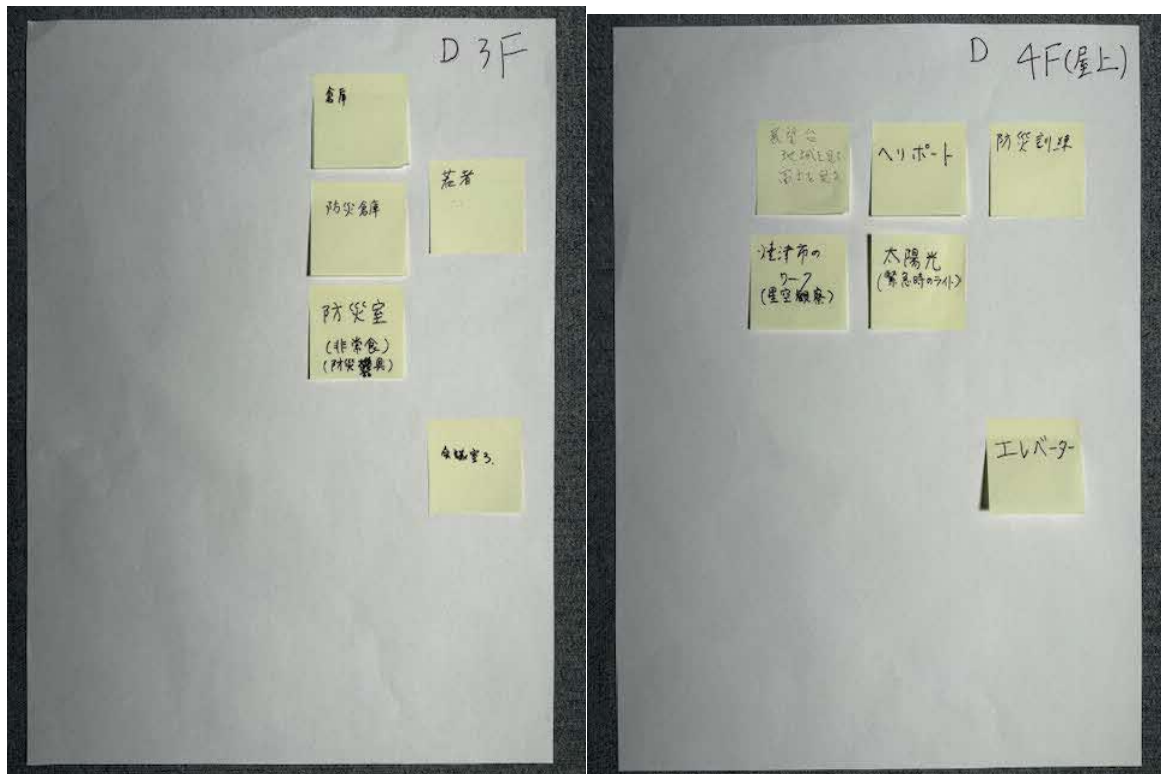
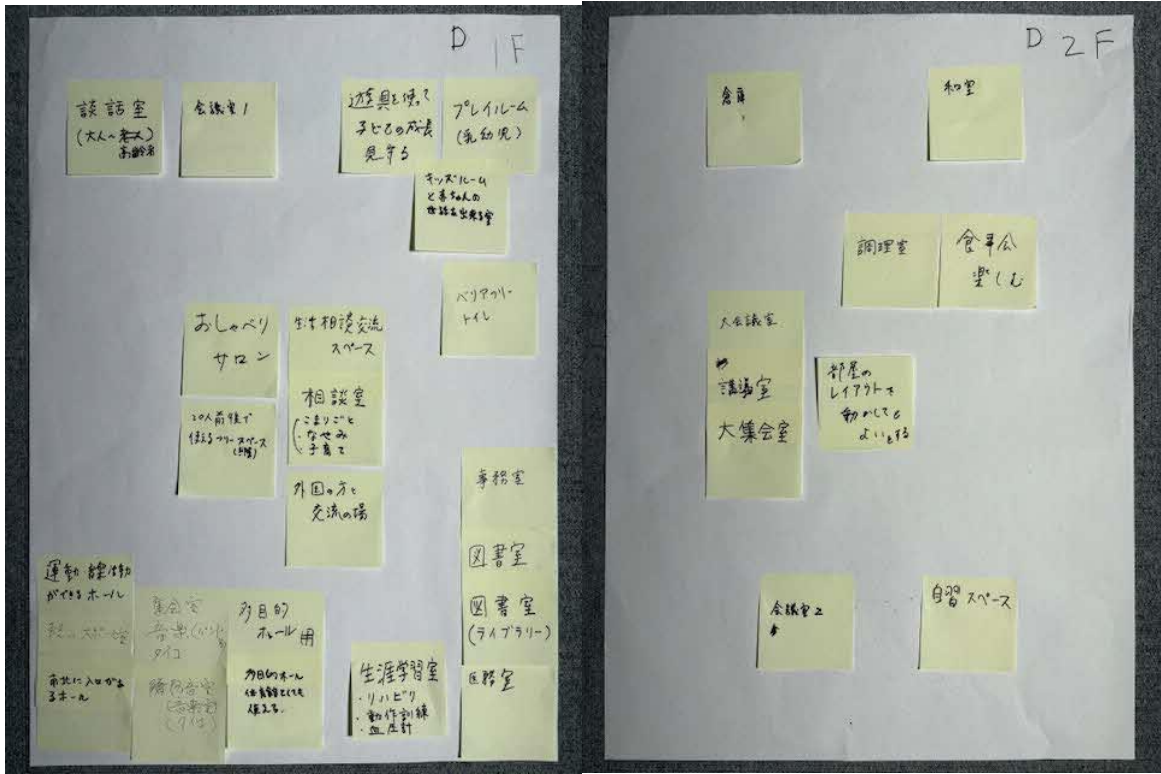
グループワーク② グループ名 C

(1) 候補地	No. 1
(2) レイアウト の方針	① 子連れに優しい ② 誰でも気軽に入れる ③ 学ばや体験
(3) キャッチ フレーズ	『とにかく 来な 来な！ 来るさ！ みなとこひろば』

ループ D

グループワーク② グループ名 D

(1) 候補地	No. 1
(2) レイアウト の方針	① 誰でも入りやすい ② 目的をもた活動 ③ 目新しさ
(3) キャッチ フレーズ	『親しみやすい、使いやすい 集いの ^{センター} 中心』



(6)グループ発表

A グループ発表 室山委員



B グループ発表 藤井委員



C グループ発表 近藤委員



D グループ発表 橋ヶ谷委員



(7)グループ発表に対する講評

前回のふり返りに始まり、この小川地域交流センターの施設内の見学、2つのグループワークを行なった。

グループワーク①では、候補地の選定につきまして、前回いただいたご意見に法的検討を加えた比較表・配置例を示し、テーブルごとにご意見をいただきました。港地域に関わりの深い皆さんからの貴重なご意見をいただきました。

グループワーク②においては、候補地を選定した上で、施設のレイアウトを考えていただき、その作業を通して、新しい施設の建設方針とキャッチフレーズとなるものを考えていただきました。

グループワークの中で、こんな大事なことを決めてしまってよいのか？という戸惑いも耳にしたが、4つのグループそれぞれに違うご意見をいただいたことが大切で、このご意見をもとにし、引き続き新しい地域交流センターの基本構想の取りまとめを行う。特に候補地の選定については、あらゆる角度から客観的な検討を重ねて構想をまとめていく必要がある。

この後、あらかじめシミュレーションした候補地ごとの建物の平面計画図を画面上で説明して終了し、大ホールの見学を行なった。

5. 考察

2回のワークショップを通じて、「候補地」についての参加者の意識は、①と④が現実的な案であると絞り込まれている。

候補地①を3グループが選定し、現施設の立地の良さと周囲への影響が少ない点を評価している。学校の玄関や昇降口への動線も確保しやすく、新施設の周囲を開放的な歩行空間とすれば、交差点廻りから広い通学路を確保することが可能ある。一方で、現施設でも感じている駐車台数の不足を懸念する声もあるが、校舎・体育館等との間のスペースや使用されていないプールを解体し、用地を有効に活用することにより、学校と新施設全体の駐車台数をより多く確保することが可能である。

候補地④については、グラウンドの縮小により、各種行事への影響が出ることを懸念する意見が多く聞かれた。この点については、縮小後も必要な機能を確保できることを確認したうえで、関係者の理解を得ることが重要である。併せて、グラウンドの照明設備、バックネット、防球フェンスについて、移設工事が必要となり、相応の工事費が発生する。

施設の検討においては、「気軽に」「誰でも」利用できる施設が求められ、特に1階部分は、予約なしで訪れ、ゆったりと利用できるスペースが望まれている。また、小川地域交流センターの見学を通じ、活用できる屋上スペースと、屋上へ通じる屋外階段にも関心が高まっている。

部屋をレイアウトする作業を通じて、新施設の建設方針とキャッチフレーズをグループごとに出し合ったものをまとめ、2回のワークショップ終了時点として下記のようにまとめた。

建設方針：『誰もが気軽に立ち寄れる施設』

『親しみやすくほっとする施設』

『体験し学び合える施設』

キャッチフレーズ：『ふらっと来るさ！』

出会い、触れ合い、学び合う、みなとっこのセンター(まんなか)に今後、基本構想をまとめる過程で、これらについても推敲を続け、現実的なものとしていく。

■ 第3回ワークショップ ■

1. 日時 令和7年9月13日(土)10時00分～11時20分
2. 会場 港地域交流センター 会議室 A・B
3. 出席者

グループ名	氏名	所属
自治会・ コミュニティ関係 (8名)	前島 政次郎	自治会・コミュニティ関係
	伊藤 恒章	自治会・コミュニティ関係
	渡邊 徹	自治会・コミュニティ関係
	大澤 雅晴	自治会・コミュニティ関係
	大石 壮吾	自治会・コミュニティ関係
	鈴木 春子	自治会・コミュニティ関係
	嶋 芳正	自治会・コミュニティ関係
	原崎 洋一	自治会・コミュニティ関係
交流センター利用者 (2名)	奥山 喜代子	交流センター利用者
	北野 八十次	交流センター利用者
若者世代 (3名)	原崎 源洋	地元住民(若者世代)
	丸山 歌乃	地元住民(若者世代)
	橋ヶ谷 建太郎	地元住民(若者世代)
学校関係 (3名)	多々良 博之	港小学校 校長
	石原 良彦	港中学校 校長
	近藤 香織	港中学校 後援会長
一般申込 (3名)	深沢 慶治	自治会・コミュニティ関係
	大石 哲郎	自治会・コミュニティ関係
	藤賀 律子	交流センター利用者
交流センター職員	伊東 義直	地域交流センター 所長

(事務局) スマイルライフ推進課 増井課長 鈴木主幹 増井主任主査 石橋主査

(コンサル)(株)清水一級建築設計事務所 代表取締役 清水誠一

同上 所員 加藤みゆき

4. ワークショップの内容

(1) 「建設候補地について」—ふり返りと考察—
配布資料P3～P9をコンサルより説明

(2) 「施設(建物)～新施設の建設方針とキャッチフレーズ」—ふり返りとまとめ—
配布資料P10～P11をコンサルより説明

(3) 建設候補地の選定
配布資料P12～P15をコンサルより説明



参加者からの意見・質疑

・④案でグラウンドの整備などに費用がかかるとのことだが、どの程度かかるか具体的に把握できているのか？

→照明設備やフェンス等、再利用できるものばかりではないこと、資材が高騰していること等もあり、数千万円から1億円を超える規模となる可能性がある。

・建物の工事費と合わせるとどうか

→現在工事中の豊田地域の工事費が建物だけで約10億円。その他の経費や資材高騰を考慮し、グラウンド等の整備費も加えると15億円に近いものとなる可能性がある

・吉永街道の近くに住む者だが、現在の施設から遠く、この地域の住民は施設の利用度が低いと思う。

④案ではさらに150mほど東となり心理的にもっと遠くになると感じてしまうので、下小田の上の住民としては①案を希望します。

・①案を希望するが、前回までのワークショップに参加できてなかったもので、意見として述べさせていただく。配置図で黄色の表示の建物を東へ広げて、その分学校敷地は狭くなるが、体育館とプールの間を使う付帯工事をするので、幸い職員室などは北側になっているので、小学校の正門を南側ではなく北側に持ってくると、小学校も交流センターも通路が広がり、大きい範囲で交流センターの建設が可能になるイメージを持ちました。

・先日の牧之原の災害のように仮住まいをする必要が出る。小川地区や大富地区も見たが、港地区の優れた点は学校に非常に近いこと。校舎との連絡通路を設置して教室を一時的にお借りしたり、通路の先に図書室を設けて児童が親の帰りを待つ等の活用が可能だと思う。

・小川地区や豊田地区の交流センターの面積が約1,500㎡で、港地区の現状が約900㎡であるとのことだが、他と同じ程度の広さになると考えてよいか。また①案④案ともに、学校敷地に入らなければならないが、その調整は進んでいるのか。

→地域の人口の関係であるとか検討させていただきつつ、面積はある程度確保していきたい。今日の時点では具体的な数字までは言えないところです。学校さんとの協議につきましては、少しずつではありますが、進めさせていただいております。これまでのワークショップも校長先生にもご参加をいただいております、状況等につきましてもある程度ご理解のいただいているかと、感じてはおります。

・港小学校の校長の多々良申します。お世話になっております。今回の、地域交流センターの建て替えについて、住民の皆さんのご意見、ご要望が十分に反映された建物ができるといいなと本当に思っております。ただ、やはり小学校への影響っていうのは、当然出てくる話になりますので、小学校の意見も十分に反映して、建てていただけたらなと思っております。

学校としては、①案実は反対で、今日の資料の5ページをご覧ください、皆さんがお話をし合っていた通りです。①案の赤字の否定的な方のご意見で、学校への影響が最も考えられるのが

①案です。④案のグラウンドの方にというのも影響が大きいですが、①案は非常に学校への影響が大きい。②案の方は、学校への影響が少ないとありその通りです。学校としては、②案にしてもらえるといいなと思っているところです。

今 2 枚の写真を配らせてもらいました。①案では、かなり校舎に近く迫るような形で構想の通りに建てるような感じになるというのがその写真です。白い部分が公民館になります。上の写真が現在の正門の状況です。子供たちが登校してるところも撮ってみました。港小学校は登下校する出入り口が 3 か所あります。正門から出入りする生徒が 7 割くらいです。今現在、かなり校舎に迫るような形で構想されていて正門にかなり食い込んでくるような建物になります。学校の正門って基本的にこう開(ひら)けています。港中イメージしてもらえるとわかると思いますが、正門が開けていて、校舎の立ち並びが見える雰囲気、開放的なところが大事かと思ってみると、閉鎖的というか威圧感を感じさせるような入口になってしまうのを心配しています。今、精神的に弱い子供たちがとても増えている。精神的に圧迫された雰囲気というものを心配しています。皆様のご指摘通り、正門から車両も入ってきますので、車両の通行の具合からも、不都合が出てしまうなという風に考えると、やはり正門のスペースは確保した形で、建設していただけたらという風に思っているところです。

もう 1 枚の写真で①案のところに建てられると、校舎の外壁に校章とか太陽が描かれています。なんとなく町のシンボルなんです、これが全く見えなくなります。それがなんだって思われるかもしれないんですが、子供たちにとってすごく大事なところかなと僕らとしては思っています。色々お話ししたいことはありますが、①案の方でというご意見が多いので、①案にするにしても学校の意向というものを皆さんご理解いただいて、今後考えていただけたらと思って発言をさせていただきました。ありがとうございました。

→写真で示していただいたように、圧迫感を感じてしまうというご意見もいただきましたので、学校さんの意向を確認させていただき建物の配置について検討したいと考えます。

・この写真を見ると、どういう形になるかまだわからないにしても、これは長方形で、上から下まで同じ高さで示してありますが、建築上こういう景観になりそうか、違うんじゃないかとも思うのですがいかがでしょう。

→①案の配置図では歩道と建物の間を空けた図にしています。この写真のイメージですと、歩道にほぼいっぱい建てたイメージ写真になっています。高さのイメージは、3階建てですとこれと近いと思います。写真では大きな壁面ですが、例えばバルコニーを設けると、もう少し引込んだ感じのある建物になり、圧迫感は少し和らぐかなと思います。

また先ほどご意見いただいた中でも、正門の位置を変えるお話も出ましたが、今の正門を維持していく方法のほか、施設と駐車場の間の部分に正門を設け、昇降口に向けて通路を広く取るようにしたり、駐車場と体育館の間の境を検討・協議を重ねて学校さんの駐車場を確保するとか、いろいろと検討することはあるかと思えます。学校さんの思いを聞かせていただいたので、それも大事にしながら進めたいと思います。

・この交差点は非常に冠水しやすい。台風 15 号の時も、冠水して迂回して帰りました。ですから、高い方の北側からも入口を考えていただいた方がよいと思います。また土台を上げていただいた方がい

と思う。また今までの文化的な機能性についての議論が続いてきか、防災や災害時の機能性について検討がされているのか伺いたい。

・避難した場合に、和室・調理室は 3 階でもいいのかとか、和室と調理室は同じ階の方が避難してきた方にサポートしやすいとか、令和元年の台風 10 号で青少年の家での教訓から、玄関では、ブルーシート、傘を入れるため大きなバケツ、1 人ずつ靴を入れるポリポリ袋、飲料水が必要だった。懐中電灯とか、非常時のものを入れるキャビネットを置いていただきたかった、こういうことを検討する会議も企画していただけたらと思う。

→防災上の検討ということでご意見がありましたけども、コロナを教訓に感染症対策グッズを各避難所にすぐ持っていけるように防災センターの方に配慮をしています。それと同じように、今後この港地域交流センターの整備にあたりまして、こういったことが必要とか検討する場面を作るような形で進めてまいりたいと考えています。

・①案で進めていくにあたり、先ほど清水さんから市の方に要望を出した方が効果的ではないかといったご意見がありましたけども、こちらにつきましては皆さん、いかがでしょうか。

渡邊徹氏より

要望書を作成することに賛成です。皆さんに提案したいんですが、実はこの会議の数年前に皆さんから強い要望があり、当時検討委員会を立ち上げて、有志と地域の代表者が集まって、自治会長はじめそれぞれその代表者が集まりまして、数回検討を加えました。その折に要望書を出しました。今その要望書がありますので、参考までに配布します。

この要望書を作った時に携わった方々がこの中にはまだ数名いらっしゃいます。そこで、この要望書を作るにあたって、もしそれが認められれば、前回までに過去に携わった方々に任せていただければ、要望書を改めて作りまして提案するという方法もあると思ったわけです。

ここで改めて作る方法もあると思うんですが、そういう案に提案して、提案しましてね、皆さんの賛同を得たいわけ。

ご覧ください。令和 2 年当時も声が上がりまして、令和 2 年 9 月 7 日に検討委員会で要望書という形で基本線を要望しました。これにはありませんが、公民館まつり等を通して、この港地域の 14 自治会、23 自治会、両方の 100 名以上の方々から要望を伺いまして、これに添付して提出してあります。これ繋げて要望書を今回また提案することを私たちに任せていただければ、そういう形で進めるのもひとつの方法かなと思い、当時私が検討委員長だったものですから、提案させていただきましたがよろしいですか。

(一同賛同)

ではそのように、よろしければ進めさせて、要望書を書かせていただきます。

渡邊さん、ありがとうございます。今、皆様から要望書を提出することにつきまして、ご賛同をいただきましたので、今後の手続きとしましては、これまでの検討委員会の方にお集まりをいただきまして、来年

度に予算編成もありますので、今月中ぐらいには要望書をまとめていただきまして、10月初旬に検討委員会の主なメンバーの皆さんから、中野市長に要望書を手渡しさせていただくというようなスケジュールで進めさせていただきたいと考えています。

先ほどの校長先生のお話を学校に持ち帰って、取り入れてもらえなかったとなると、子ども達にとってもよくないかなと思います。人はみんないろんな意見を出して、そしていい方向へ持っていくんだよっていう形を、子ども達に示されるような形であれば、子ども達に、自信を持って、自分の意見をしっかりと言うんだよというような教えができるんじゃないかなと思います。その辺りの配慮をお願いしたいと思います。

基本的には①案がいいとは思いますが、ただ、小学校との連携は密に取っていただいて、少なくとも今ある玄関だけは確保していただいて、建物は南北に長く今の駐車場の方に広げていくなとか、それは学校と調整していただいて、子どもたちのことも大事にして、小学校との連携をお願いしたいなと思います。

ここに来てる方は、見ての通り 20 代の方から 60 代 70 代ぐらいの方まで勢ぞろいしていて、私は、高校生の息子がいるんですけど、そのポジションで意見をというつもりでここに座らせていただいています。前回の話では①案を提案したんですが、④案を提案しなかったのはグラウンドの件で、子ども達への影響が大きいということから、私個人の意見としては①案だと思いました。

今回、校長先生のお話を聞いて、ここに建つとこういう形になるというのを見てみると、やっぱり子どもへの影響がすごく大きい。みんなが集える、特に子どもが集える、学校と連携が取れるということを考えると、ちょっと考え直した方がいいのかなと漠然と思ってしまいました。なので、子どもを大事にしてほしいなと。その気持ちが素直な一言です。

(4)その他連絡事項

皆様から様々なご意見をいただきました。

今後ですね、今年度につきましては皆様の意見を反映させていただいて、基本構想と基本計画といったものを、今年度中にまとめる予定です。皆さんから、防災面とか、子どもさんに対する影響とか、市との連携とかの、様々なご意見をいただきましたので、そういったご意見を、基本構想に反映をさせていただきたいと考えています。

今後のスケジュールとしまして、次回、ワークショップを 10 月 11 日土曜日、10 時から予定をしています。この時には、基本構想の素案を皆様にお示しをさせていただきまして、ご意見をいただきたいと思います。次回ご参加いただきまして、皆さんから、ご意見をいただきたいと思います。

以上を持ちまして、ワークショップを閉会させていただきます。

5. 考察

今回のワークショップ前半では、「候補地」「建物」についてふり返りと考察を説明し、「候補地」については①案と④案が現実的であることに異論はなく、「建物」の建設方針とキャッチフレーズについても説明し、概ね参加者の認識通りのものになったと思われる。

ワークショップ後半では、候補地を選定するにあたり、①案と④案の客観的評価を示し、①案が現実的との認識で概ね理解を得た。参加者からの意見としては、防災面についてさらに深い議論を求める意見や、④案の関連工事に関するコストについての質疑があった。その一方で、多々良港小学校長から、本件の立地上、工事上、学校運営上の影響を受ける当事者としての意見として、資料と共に①案に関する課題が述べられた。

今後、基本計画の策定を進めるにあたり、建設委員会やワークショップでは解決できない事項も多く、関係各課との調整が必要なことから、(旧)港公民館建て替え検討委員会の渡邊委員長から、焼津市長宛ての要望書を提出することが提案され、一同の賛同により10月初旬提出を目的に準備を進めることとなった。

その後、多々良校長の意見を受け、参加者からは、児童や学校に配慮した計画を望む意見が出され閉会した。上記を踏まえ、候補地①を前提としながらも、下記について児童・学校への配慮をしながら、基本構想の素案を作成していく。

《構想をまとめる上で児童・学校に配慮すべき事項》

- ・学校正門の存置 または 位置変更する場合の開放性
- ・校舎外壁絵画の視認性確保 または 代替案の検討
- ・緑地部分の活用による車両通路・駐車場確保 等

■ 第4回ワークショップ ■

1. 日時 令和7年10月11日(土)10時00分～11時40分
2. 会場 港地域交流センター 会議室 A・B
3. 出席者 19名

グループ名	氏名	所属
A (5名)	伊藤 恒章	自治会・コミュニティ関係
	原崎 洋一	自治会・コミュニティ関係
	丸山 歌乃	地元住民(若者世代)
	深澤 慶治	自治会・コミュニティ関係
	長谷川 晴美	交流センター利用者
B (5名)	渡邊 徹	自治会・コミュニティ関係
	奥山 喜代子	交流センター利用者
	北野 八十次	交流センター利用者
	原崎 源洋	地元住民(若者世代)
	多々良 博之	港小学校 校長
C (4名)	鈴木 春子	自治会・コミュニティ関係
	片岡 巧	地元住民(若者世代)
	藤賀 律子	交流センター利用者
	伊東 義直	港地域交流センター所長
D (5名)	前島 政次郎	自治会・コミュニティ関係
	大澤 雅晴	自治会・コミュニティ関係
	橋ヶ谷 建太郎	地元住民(若者世代)
	近藤 香織	港中学校 後援会長
	大石 哲郎	自治会・コミュニティ関係

(事務局) スマイルライフ推進課 増井課長 鈴木主幹 増井主任主査 石橋主査

(コンサル) ㈱清水一級建築設計事務所 代表取締役 清水誠一

同上 所員 加藤みゆき

㈱ナイン コミュニティデザイン 水野優子

焼津 PORTERS 橋本奈々実

4. ワークショップの内容

(1) 要望書の提出について

事務局より、前回のワークショップにて多々良校長より小学校の正門に閉鎖的や威圧感を感じさせないようにして欲しいことなど小学校の意見を十分反映していただきたいと意見があったので、小学校とは事前に調整し要望書にまとめられたことを説明した後、配布資料を渡邊委員長より説明。

(2) 前回までのワークショップの振り返り

配布資料P4～P6をコンサル(清水一級建築設計事務所)より説明

(3) 基本構想案の説明 配布資料P7～P9をコンサル(清水一級建築設計事務所)より説明

(4)グループワーク①

◆「基本構想案」に関する意見共有

意見交換を実施

青:良い・残したい 赤:懸念点・課題 黄:追加したい

項目	グループ	意見
基本構想案 に対する 意見 (グループ別)	A	<p>港小学校の西門の設置 広場に西門がある 西門の新設 広場から学校につながっている 東側の圧迫感が少ない 駐車場の台数が増える 小学校の桜を残す フリースペースが多い エレベーターの設置・設置場所</p> <p>車椅子に対応しているか 車椅子での2階・3階・屋上への移動</p> <p>防災の倉庫が多く欲しい 防災拠点として老人を収容しきれるか？(屋上)広場 増水に対する備えはどうなっている？車イス・高齢者対策</p> <p>多目的ホールの広さ(狭い) フリースペースと駐車場とのつながりを広く</p> <p>駐車場を他に多くとる スロープの外階段 全面ガラス張り</p>
基本構想案 に対する 意見 (グループ別)	B	<p>入口(玄関)が小学校側にあり小学校から入りやすい 1階にフリースペースがあり立ち寄りやすい 西門の設置 GOOD 1階のフリースペースが十分とれていて生かしたい 1階立ち寄りやすそう ロビーが広々して良い キッズルームが広々して良い 子育て支援室が日当たりの良い場所 屋上は星空観察ができる思いは大切に 会議室1・2は(間仕切りが)移動出来て良い 会議室使いやすそう</p> <p>多目的室の大きさを知りたい(今の大きさとの比較) 自習室の用途は？ 多目的ホールの(天井)高さは必要か？ 学校と比べて建物の高さは？ 室外機(の位置)が気になる(学校)</p> <p>部屋数を増やしたい 室数を今より増やしてほしい 講座利用の時に足りない</p>

基本構想案 に対する 意見 (グループ別)		<p>1階のフリースペースを必要に応じ区切れると良い 自習室を会議室にする 2階の調理室と3階の会議室をチェンジしたい 玄関にスロープ</p>
	C	<p>フリースペースが各階にありミーティングがしやすい フリースペースが充実している 災害備蓄庫が充実している 駐車場が広くなる(学校と)相互に利活用の可能性がある</p> <p>フリースペースも話し合いで決めるのか、子供向けが主なのか 災害対応 現状和室を使用している 和室10畳では狭いと考えられる ➡多目的ホールを使用 吹抜のスペースを部屋にできないか 災害時の用品 どの階にも置く場所が欲しい 自習室と事務室が別階になっているので管理が大変になる 監視するためのカメラ設置が必要</p> <p>工作室はない? テーブル・流しなど専用のものが欲しい</p>
	D	<p>和室の水屋 1階キッズルームの庭 会議室の移動間仕切り 1階のホールは良い 図書スペースとフリースペースの併設</p> <p>子育て 子供向けのスペースはあるが外国人・高齢者向けのスペースは設けないのか 4階建てとして1階はピロティで駐車場とする ガラス張りは良いと思うが防災(竜巻・突風)の面でどうか 調理室の移動 多目的ホールの拡大 緑地の移動(北側へ) 広場の具体的な使い方は? (学校の)保健室の活用 調理室は3階に移動し、防災備品庫を作って欲しい ホール広すぎ? 多目的ホールが2階にあるが下への振動は大丈夫か?</p> <p>2階ホール 100人収容できる上でステージができる設備希望 3階から小学校への渡り廊下を希望 図書エリアの仕切りがあれば 過去に水害を被った 浸水からの安全度を高めて欲しい 1階・駐車場の嵩上げ</p>
基本構想案 に対する 意見	<p>良い 残したい</p>	<p>港小学校の西門の設置 広場に西門がある 西門の新設 広場から学校につながっている 西門の設置 GOOD</p> <p>【ひろば・西門について】 5件</p> <p>東側の圧迫感が少ない 駐車場の台数が増える 小学校の桜を残す</p>

<p>基本構想案 に対する 意見</p>	<p>良い 残したい</p>	<p>駐車場が広くなる(学校と)相互に利活用の可能性がある 【学校との関係・駐車場について】 4件</p> <p>フリースペースが多い 1階にフリースペースがあり立ち寄りやすい 1階のフリースペースが十分とれていて生かしたい 1階立ち寄りやすそう ロビーが広々して良い フリースペースが各階にありミーティングがしやすい フリースペースが充実している 図書スペースとフリースペースの併設 1階のホールは良い 【ホール・フリースペース等について】 9件</p> <p>キッズルームが広々して良い 子育て支援室が日当たりの良い場所 1階キッズルームの庭 【キッズスペース等について】 3件</p> <p>会議室1・2は(間仕切りが)移動出来て良い 会議室使いやすそう 会議室の移動間仕切り 災害備蓄庫が充実している 和室の水屋 【会議室等について】 5件</p> <p>入口(玄関)が小学校側にあり小学校から入りやすい エレベーターの設置・設置場所 屋上で星空観察ができる思いは大切に 【その他 3件】</p>
<p>基本構想案 に対する 意見</p>	<p>懸念点 課題</p>	<p>防災の倉庫が多く欲しい 防災拠点として高齢者を収容しきれるか?(屋上)広場 浸水に対する備えはどうなっている?車イス・高齢者対策 災害対応 現状和室を使用している 和室10畳では狭いと考えられる ➡多目的ホールを使用 災害時の用品 どの階にも置く場所が欲しい 4階建てとして1階はピロティで駐車場とする(津波対策) ガラス張りは良いと思うが防災(竜巻・突風)の面かどうか 【防災に関すること 7件】</p> <p>自習室の用途は? 吹抜のスペースを部屋にできないか 自習室と事務室が別階になっているので管理が大変になる 監視するためのカメラ設置が必要 調理室の移動 多目的ホールの拡大 緑地の移動(北側へ) 調理室は3階に移動し、防災備品庫を作って欲しい ホール広すぎ? 【各室の要検討事項 6件】</p> <p>フリースペースと駐車場とのつながりを広く フリースペースも話し合いで決めるのか、子供向けが主なのか 子育て 子供向けのスペースはあるが外国人・高齢者向けのスペースは設けないのか 【フリースペースの使い方 3件】</p> <p>多目的ホールの広さ(狭い) 多目的室の大きさを知りたい(今の大きさとの比較)</p>

		<p>多目的ホールの(天井)高さは必要か？ 多目的ホールが2階にあるが下への振動は大丈夫か？ 【多目的ホールに関する事項 4件】</p> <p>車椅子に対応しているか 車椅子での2階・3階・屋上への移動 【車椅子対応の確認 2件】</p> <p>学校と比べて建物の高さは？ 室外機(の位置)が気になる(学校) (学校の)保健室の活用 広場の具体的な使い方は？ 【学校との関係 4件】</p>
	追加したい	<p>スロープの外階段 玄関にスロープ 【ユニバーサルデザイン 2件】</p> <p>部屋数を増やしたい 室数を今より増やしてほしい 講座利用の時に足りない 1階のフリースペースを必要に応じ区切れると良い 図書エリアの仕切りがあれば 【移動間仕切り・部屋数増 4件】</p> <p>自習室を会議室にする 2階の調理室と3階の会議室をチェンジしたい 工作室はない？テーブル・流しなど専用のもので欲しい 2階ホール 100人収容できる上でステージができる設備希望 【各室の検討事項 4件】</p> <p>3階から小学校への渡り廊下を希望 過去に水害を被った 浸水からの安全度を高めて欲しい 1階・駐車場の高上げ 全面ガラス張り 【防災対応 3件】</p> <p>駐車場を他に多くとる 【その他 1件】</p>

(5)グループワーク②

◆「小学校との相互利用の方法」について意見共有

意見交換を実施

※コンサル(清水一級建築設計事務所)より、学校と地域交流センターの連結は可能であり、防災面でも行き来ができるが、学校の補強計画や耐震補強が必要なことや、連結により建築設計の自由度が制約されるといったメリットデメリットを説明し、学校と交流センターをつなげることに
ついて皆さんで意見を出し合った。

また、多々良校長より、以前は防災面で3階がつながっていけばという考えがあったが、無理やりつなげたところでメリットがあるかどうか未知数とっていて、これだけ隣接して西門を作ってもらうことで学校と地域交流センターとの利便性は高まるのでありがたく十分だという感覚であるといった学校の立場としての意見をいただき、ワークショップに入った。

項目	意見
良い点	西門がつくられる＝それが地域と小学校とのつながりに西門が正門になりえるのでは？ 学校との連携としての西門の設置は、子どもにとって利便性と安全性が増す 防災の面での安心感あり 避難所としての役割を担うため、収容人数を確保するために必要
悪い点	経済的にも、構造的にも合築は無理 学校とつながるとなると着工が遅れる 学校の防犯面 不特定の方が学校に来ることが心配 工事の騒音が気になる 通路を作ると圧迫感 校舎と交流センターの築年数が異なるため維持管理が大変 学校にエレベーターがないため、つないでも階の移動が大変である 時間とコストがかかる 防犯・安全面の確保が難しい 工事期間中の小学校への影響大 高齢者が外階段を上ることが無理なため、エレベーターを使用して3階から小学校へ移動する方法もある とってお金がかかりそう 工事による学校への影響大 南側の校舎の壁を壊すと港小のアイデンティティのイラストが完全になくなるのでは？
その他	体育館との連結ができないなら不要 下校時に(児童と)多く触れ合いがあるので生かしたい 花植え、草取りなど一緒に楽しみたい 災害時の避難スペース利用人数や、用途・機能のシミュレーション必要 子供達が自由に行き来できるようにするのか考えるべき 正直 いまいちピンとこない 2階ではだめなのか 災害・火災などの避難以外につなげることへの切実さはあるのか

(6)グループ発表

A グループ発表



B グループ発表



C グループ発表



D グループ発表



(7)グループ発表に対する講評

前回のワークショップで焼津市長宛ての要望書を提出することを決定し、10月7日に中野市長に提出したことが本日はじめに報告されました。その後、前回のふり返りと基本構想案の説明、グループワークを行なった。

基本構想案に関するグループワークでは、配置案と平面図案についてご意見をいただきました。配置案につきましては、交流センターと駐車場の間に「ひろば」を設けて、地域と学校の交流を図る計画に概ねご理解を得られた。平面図案につきましては、「誰もが気軽に立ち寄れる」などの建設方針のもと、フリースペースや各階のホールを広めに確保したことから、現在の施設に比べて部屋数が少ないことに多くのご意見をいただいた。この点については、運用により対応する部分とレイアウト変更で対応するべき部分があると思われます。精査の上、基本構想をまとめていく。

港小学校との相互利用における、学校との連結につきましてもさまざまなご意見をいただいた。建物の連結にはコストや時間がかかる一方で、配置計画において地域の交流が生まれるとのご意見もいただいているため、連結の必要性について評価し報告書にまとめていく。

5. 考察

今回のワークショップでは、第1回・第2回のワークショップを通してまとめた施設のコンセプトと、第3回のワークショップで話し合った児童・学校への配慮事項をふまえた基本構想案について、意見共有を行なった。

配置計画においては、「ひろば」と「西門」の設置により「交流の場」を生むことについて、参加者からは好意的に受け止められた。

建物については、外部とのつながりやフリースペースが充実している点については一定の評価を得ることができた。しかしながら、会議室・調理実習室などの部屋数など、現施設と比較して減少している点に懸念が集中しており、改善の必要がある。また、多目的ホールの床面積を確保することも求められている。対応策として、2・3階のホール幅を再検討する。また自習室は、運営上事務室に近く管理しやすい位置とするため、図書コーナーに併設し、キッズスペース上部の吹抜を中止する。これらにより、2階の利用度を上げ、諸室の床面積を確保し懸念事項を解決する。

港小学校との相互利用については、防災上のメリットを上げる意見はあるものの、通常時の利用に前向きな意見は少なく、児童への影響や工事着工が遅くなる懸念から、どのグループも小学校と地域交流センターを連結する必要性は感じないという意見でまとめられていた。一方で、建物の連結はなくとも、「西門」「ひろば」の設置により交流が生まれることを期待する意見が聞かれた。

連結に関する懸念事項を以下に記す。

- ・学校内の防犯上、連結部は通常は施錠、解放時の管理上の問題を把握する必要がある
- ・校舎内にエレベーターがなく、高齢者の利用は困難
- ・不特定多数が使用する範囲には集会場としての避難規定が適用される
- ・連結開口を設けることは耐震性能の低下につながり、耐震評定・補強工事を伴う可能性が高い
- ・階高の違いにより通路部分のバリアフリー化が困難

3. 建設候補地について

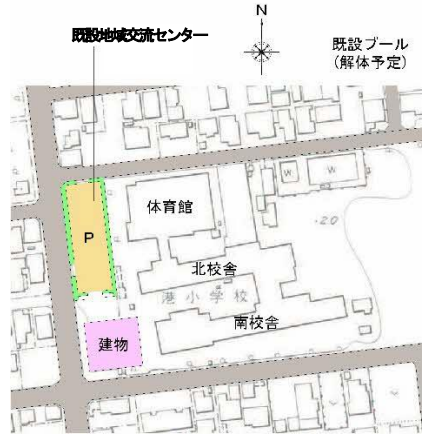
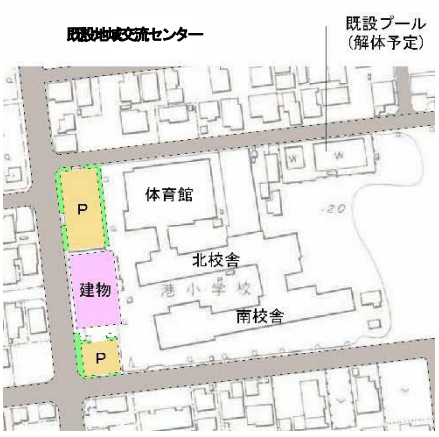
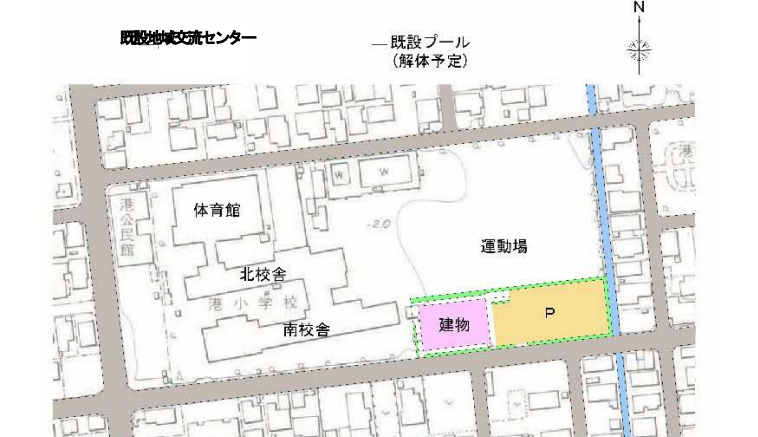
施設の整備場所については、現施設周辺で候補と考えられる5箇所(下図①～⑤)について、ワークショップを通して諸条件を比較検討しました。



現施設に近く利便性が良く、周辺への影響が少ないと思われる3箇所(下図①②④)に絞り込み、総合的に諸条件や課題をさらに精査の上、現施設の駐車場部分を利用して建て替えを進める案(下図②)を選定しました。(次ページに3箇所の比較表を示します)

想定する床面積を確保し、十分な駐車台数を確保するためには、現施設と港小学校の敷地を総合的に利用する計画が必要と思われる、隣接する港小学校への影響を抑えることも念頭に置き関係各課との調整が不可欠。

■ 整備箇所 諸条件比較表 ■

候補地略図			
候補地 No 検討項目	㊶ 現敷地 交差点側	㊷ 現敷地 交差点側	㊸ 学校敷地 グラウンド南道路沿い
利便性・環境	現施設と同敷地であり、利便性が高い。公園に近く環境が良い。学校に近接し連携がとりやすい		現施設に近く、利便性は大きく変わらない。学校に近接し連携がとりやすい
道路条件	西側12m道路 南側9m道路		南側9m道路
法的な検討 (高さ制限・都市公園法)	道路線制限 西側道路より4m後退 (12.0m+4.0×2)×1.25=25.0m ∴問題ない 道路線制限 南側道路より8m後退 (9.0m+8.0×2)×1.25=31.25m ∴問題ない 建物北側及び西側道路面に余地あり日影制限の影響はない		道路線制限 南側道路より3.5m後退 (9.0m+3.5×2)×1.25=20.0m ∴問題ない 建物北側に余地あり日影制限の影響はない
建物の配置	東西軸の日当たりの良い建物が建築可能	南北軸の建物となり日当たりは良くない	東西軸の日当たりの良い建物が建築可能
課題(支障物・移転物件)	地域交流センター側:自治会倉庫・土のうステーション・学校側:駐輪場上屋・飼育小屋・池		グラウンド内倉庫
関連工事	特になし		プール解体及び遊具移設工事・グラウンド照明設備・防球ネット等の移設工事 上記に伴うグラウンド整備工事
周辺宅地 への影響	南側・西側住宅地とは広い道路で隔てられ影響は少ない		南側住宅地とは広い道路で隔てられ影響は少ない 東側住宅地とは駐車場と近接する可能性がある
工事中の課題	現センター利用者の駐車場確保が必要 通学路に面して工事を行なうため安全確保に十分な配慮が必要		工事中も現センターの駐車場は利用可能 通学路に面して工事を行なうため安全確保に十分な配慮が必要
総合評価 及びコメント	現センターと同じ敷地内に建設するため、地域として受け入れやすい計画といえる。また学校との連携も現在と同様に維持できる。現施設の駐車場内での工事であり、工事期間中のセンター利用者の駐車場を確保することが必要である。また、移転物件の配置先の検討が必要である。		新たな敷地であり、建物としては自由度の高い計画が可能である。学校のグラウンドを縮小するため、トラックの周囲が現状よりも狭くなり、各種行事への影響が大きい。野球場を維持するためには関連工事に相応のコストがかかる。

4. 建て替え検討委員会による市への要望書提出について

令和7年10月7日、港地域交流センター建て替え委員会より、焼津市長宛てに港地域交流センター建て替えに関する要望書が提出された。

港地域交流センター建設地に関する要望書

令和7年10月7日

港第14自治会・第23自治会建て替え検討委員会

令和7年10月7日

焼津市長 中野弘道様

港第14自治会・第23自治会建て替え検討委員会

委員長 渡邊 徹 (23)

委員 大石 壮吾 (23)

委員 大澤 雅晴 (14)

委員 鈴木 春子 (14)

港地域交流センター建設地に関する要望書

平素より港地域における地域交流の推進及び防災体制の強化にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、本検討委員会では、令和2年9月7日に港公民館の早期建替えの実現を願って要望書を提出した経緯も踏まえ、昨年度以降、公募の地域住民を含めたメンバーによる意見交換会やワークショップを開催するなど、新たな港地域交流センターの建設地について多様な視点から検討を重ねてまいりました。

その結果、下記のような理由により「現センター南側駐車場内（別添図面のとおりに）」を総合的に最も適しているとの結論に至りました。

(主な選定理由)

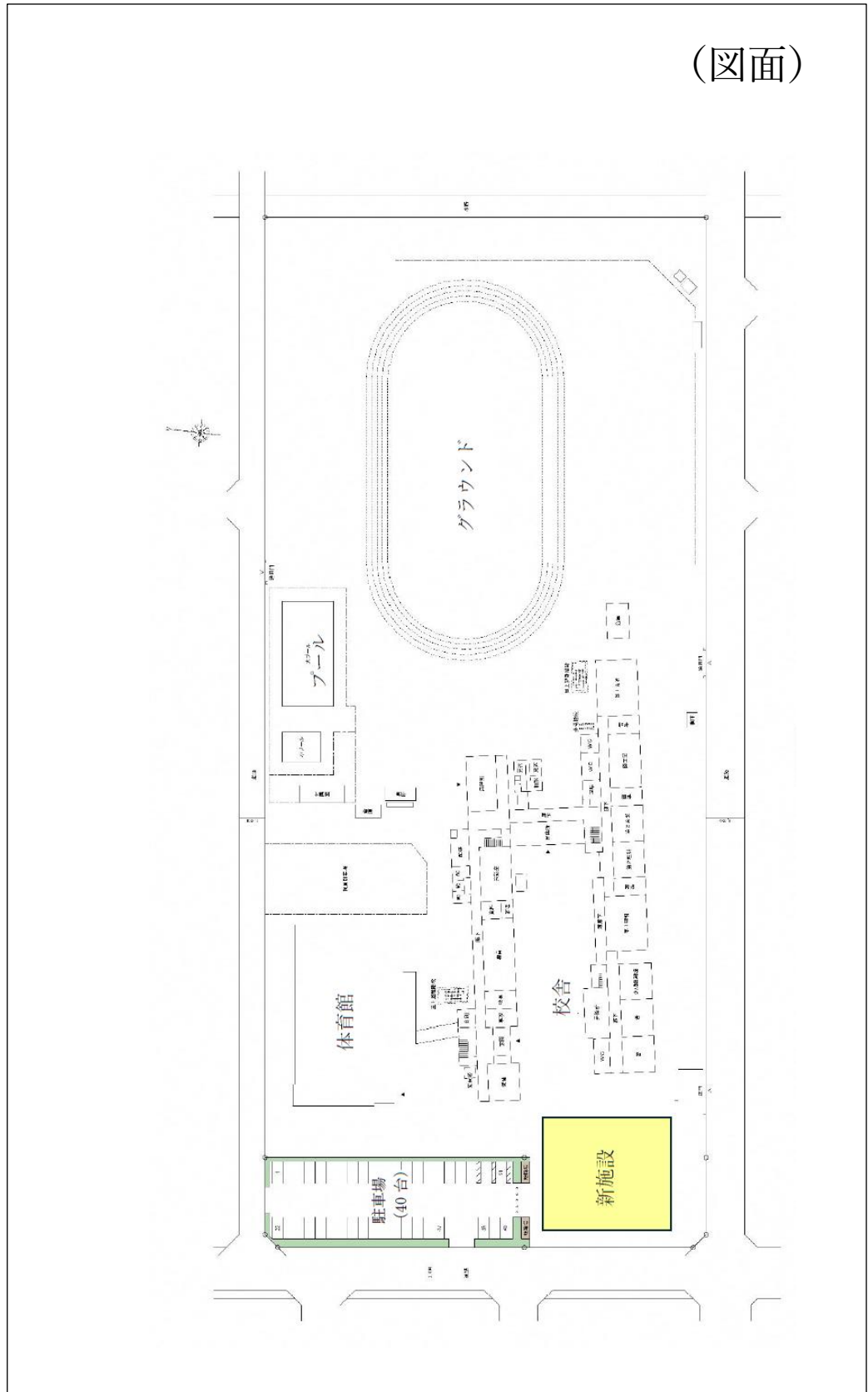
- 1 現在の位置とほぼ同じ場所で利便性が良く、地域住民に分かりやすい
- 2 港小学校に隣接しており、子どもたちが立ち寄りやすく、学校との連携も現在同様に維持できる
- 3 周辺住宅への影響が少なく、高さ制限や道路条件等の法的制限についても問題がない
- 4 現施設に比べ、日当たりの良い建物が建築可能である

つきましては、当該地を建設地として位置づけ、今後の設計や建設など具体的な整備を推進していただくよう強く要望いたします。

併せて、隣接する港小学校の敷地内の通路を確保するとともに、正門に圧迫感が生じないよう、新施設の配置や景観にもご配慮いただくことを要望します。

なお、新しい地域交流センターの整備に際し、施設利用者の利便性を損なわないために、隣接する港小学校のプール用地等の新たな場所を駐車場として確保することについてもご高配をお願いいたします。

(図面)



第4章 まとめ

1. コンセプト 及び キャッチフレーズ

港地域交流センターは、防災拠点としての機能を備えることはもとより、誰もが気軽に立ち寄り体験し学び合える地域の中心施設をめざし、地域住民の交流を深め生きがいをづくりを推進する場として、また安心・安全な地域づくりに寄与する拠点として整備する。

■ コンセプト ■

『誰もが気軽に立ち寄れる施設』

『親しみやすくほっとする施設』

『体験し学び合える施設』

■ キャッチフレーズ ■

『ふらっと来るさ！』

出会い、触れ合い、学び合う、
みなとっこのセンター(まんなか)に

2. 施設機能の提案

基本方針を効果的かつ効率的に実現できるよう、施設の機能を次のとおりとする。

なお、建物の延床面積は 1,500 m²程度とする。

(1) 出会い・交流の場としての機能

こどもから高齢者まで、個人・グループを問わず気軽に立ち寄り、休憩や語らいなど日常生活の一部として過ごせるフリースペースの設置を検討します。

◇ホール ◇フリースペース ◇図書コーナー など

(2) 生涯学習, 健康・福祉・子育ての場としての機能

打合せやミーティングなどのグループ活動や自主学習・生涯学習の場として、移動間仕切りを備える大・小会議室、実習室、和室などの設置を検討する。また、音楽や軽運動が可能な仕様の多目的ホールの設置を検討する。

◇会議室 ◇調理実習室 ◇和室 ◇多目的ホール ◇大集会室 など

(3) 防災拠点としての機能

平時は交流センターとして使用し、災害発生時は地域の防災拠点となるよう、和室や多目的ホールは避難者の受入場所として、調理実習室は炊き出しや食事の提供場所として、ロビーや事務室は地域の災害本部や情報発信拠点として機能するよう計画する。

◇和室 ◇多目的ホール ◇調理実習室 ◇ロビー ◇フリースペース ◇事務室 など

3. 小学校との複合化について

地域の中心としての機能を検討した結果、隣接する小学校との交流や相互利用についても検討し、配置計画にも反映することとする。港地域交流センターと小学校とを通路などで接続しないが、「交流の場の整備」と併せて、敷地の一体利用や体育館、駐車場等の共同利用する「施設の共同利用」を図っていくことで、複合化と同じような機能を果たしていくこととする

『誰もが気軽に立ち寄れる施設』
【施設の建設方針】 『親しみやすくほっとする施設』
『体験し学び合える施設』

- 個人でもグループでも、フリーに多目的に使える空間
- 内部のくつろぎが外部に伝わり、入りやすい雰囲気を出す
- 多様な世代が気軽に集まり、思い思いの時間を過ごせる「たまり場」的な空間を生み出す

(具体的な利用方法)

- ・ロビーなどのフリースペースに加え、会議室の未利用時間帯の常時開放

「交流の場の整備」

- 駐車場と施設の間に「ひろば」「西門」を設置
 - 地域・センター・学校共通の交流スペースとする
 - 「ひろば」に面する「西門」は学校の玄関及び昇降口に通じる
- 自習室やフリースペース、図書スペースの設置
 - 地域住民と子ども達の交流の場、居場所として活用

「施設の共同利用」

地域交流センター施設の共同利用

- 自習室やフリースペース、図書スペースの設置（再掲）
 - 子ども達の自主的な学習の場、子どもの居場所として活用
- 「ひろば」の活用（再掲）
- 交流センターを避難所の一部として活用、防災資機材の保管
 - 状況に応じて避難スペースとして活用

港小施設の共同利用

- 学校体育館の共同利用
 - センター主催講座等により、地域住民の健康維持の促進への期待
 - 体育館の有効的な活用促進
- 図工室や音楽室、家庭科室など特別教室の共同利用
 - ものづくりや合唱等の講座等により、地域住民の生きがいづくりの促進と施設の有効利用
- 校舎南側の花壇やビオトープの活用（再掲）
 - 花や野菜栽培、ビオトープ整備等の体験活動を通じて地域交流を促進

駐車場の共同利用

配置概念図

